

iPlanet Messaging Server リリースノート

バージョン 5.2

2002 年 3 月

このリリースノートには、iPlanet™ Messaging Server 5.2 に関する重要な情報が記載されています。ここでは、機能や改良点、インストールに関する注意事項、既知の問題、およびその他の最新情報を取り上げています。この文書は、iPlanet Messaging Server をインストールする前にお読みください。

このリリースノートのオンライン版は、iPlanet 関連マニュアルの Web サイト

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/messaging.html> で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前だけではなく、そのあとも定期的にアクセスして、最新のリリースノートやマニュアルを確認してください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- iPlanet Messaging Server の新機能
- 重要性がなくなった機能
- ハードウェアおよびソフトウェアの要件
- サポートされているプラットフォーム
- チューニング要件
- 製品階層および依存関係
- 修正済みのバグ
- 既知の問題、制限事項、および注意事項
- マニュアルの変更点
- 問題のレポート方法
- その他の情報

iPlanet Messaging Server の新機能

iPlanet Messaging Server は、オープンインターネット規格を使用するさまざまな規模の企業およびメッセージングホストの電子メールに関するニーズに応え、強力で柔軟性に富んだソリューションを提供します。

iPlanet Messaging Server は、Netscape Messaging Server と Sun Internet Messaging Server を統合した製品です。iPlanet Messaging Server は、両製品の最も強力でパフォーマンスの高いコンポーネントから構成されています。たとえば、メッセージストア、LDAP ディレクトリ、および管理コンソールは Netscape Messaging Server から受け継いだものであり、メッセージ転送エージェント (MTA) および Delegated Administrator コマンドラインインタフェースは Sun Internet Mail Server から受け継いだものです。

iPlanet Messaging Server は統合された製品であるため、Netscape Messaging Server や Sun Internet Messaging Server とは異なるプロセスや手順が多数あります。詳細については、<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/messaging.html> にある iPlanet Messaging Server 5.2 のマニュアルを参照してください。

Messaging Server バージョン 5.2

Messaging Server 5.2 に固有の新機能を以下に示します。

- iPlanet Web Server 6.0 SP2 (Service Pack 2) との統合
- Messenger Express Multiplexor の導入による HTTP サービスの機能拡張
- スペルチェッカー、Internet Explorer 用のリッチテキストの書式設定、共有フォルダ、ナビゲーションを容易にするユーザインタフェースの改善などの、Messenger Express (Web メール) の機能拡張。さらに、Messenger Express でのタイ文字セットのサポート
- MTA ダイレクト LDAP 検索
- 標準の SMTP 認証をサポートしない従来の POP クライアントをサポートする、POP before SMTP サービス。このサービスは、Messaging Multiplexor の新しい SMTP プロキシコンポーネントの使用によって実装される
- iPlanet Messaging Server と UNIX の /var/mail 形式のフォルダ間でのインポートおよびエクスポート機能
- dns_verify プログラムでの DNS ベースのデータベースの追加サポート
- 設定変数 store.quotanotification は使われなくなりました。制限容量の通知を有効または無効にするには、store.quotaexceededmsg 設定変数を設定または設定解除します。IMAP ALERT メッセージを無効にすることはできません。
- 『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』および『iPlanet Messaging Server リファレンスマニュアル』の MTA に関する説明の再編と拡充

Messaging Server

Messaging Server 5.2 で拡張された機能を以下に示します。

- サービスクラスのサポート
- Calendar Server と Enterprise Server のプロビジョニングモデルの融合 (仮想ホスト処理のサポートを含む)
- エンドユーザによるカスタマイズが可能な Delegated Administrator for Messaging and Collaboration
- 一元化されたメッセージング機能のサポート
- ユーザ、グループ、およびドメインのプロビジョニングを行うためのコマンドラインユーティリティ
- IMAP、POP、SMTP、および Messenger Express (Web メール) のアクセス制御
- 受信メッセージをフィルタするためのサーバ側の規則
- ドメインごとのポストマスターのサポート
- 不特定多数宛て大量メール (UBE) 制御機能の拡張
- SMTP 認証および STARTTLS のサポート
- メーリングリストに関する動的グループのサポート
- 顧客が各自の注文エントリシステムに統合できる、プロビジョニングインタフェース
- Veritas Cluster Server および Sun Cluster の統合による高可用性
- 拡張されたオンラインバックアップおよび復元機能
- メッセージストアの信頼性の向上とメッセージストア回復ツールの機能改善
- Calendar Server、Messenger Express (Web メール)、およびユーザ管理サービスへのシングルサインオン
- Sun Cluster 3.0 のサポートを含む、拡張された高可用性
- HP-UX および Microsoft Windows NT に対するプラットフォームサポート
- ヨーロッパ市場およびアジア市場に対して強化された国際化および地域対応機能
- Solaris 8 プラットフォーム用 SNMP モニタリング機能
- Netscape Messaging Server 4.15 および Sun Internet Mail Server (SIMS) 4.0 から Messaging Server 5.1 に移行するための移行ツール
- 『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』、『プロビジョニングガイド』、および『スキーマリファレンス』を含む、改訂および拡充されたマニュアル

重要性がなくなった機能

以下に示す機能はこのリリースでは重要性がなくなり、将来のリリースでは削除される予定です。

- Netscape Directory Server 4.x のサポート

まだ Netscape Directory Server 4.x がサポートされている場合でも、このリリースの時点で iPlanet Directory Server 5.x のサポートを設定することができます。次のリリースの Messaging Server では、Netscape Directory Server 4.x はサポートされません。現時点では、Netscape Directory Server 4.16 に関するサービスは、2003 年 1 月 24 日に終了する予定ですのでご注意ください。

Messaging Server と Directory Server のインストールの詳細については、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

- imsimta dirsync コマンド

imsimta dirsync コマンドは、次のメジャーリリースで新しい MTA ダイレクト LDAP 検索機能と置き換えられます。ダイレクト LDAP 検索機能の使用の詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照してください。

- Sun Cluster 2.2 のサポート

現在 Sun Cluster 2.2 を使用している場合は、Sun Cluster 3.x を使用することをお勧めします。Sun Cluster 2.2 のサポートは次のリリースの Messaging Server では削除される予定です。Sun Cluster 3.x については、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

- Veritas Cluster Server 1.x のサポート

Veritas Cluster Server 1.x のサポートに重要性がなくなったため、次のリリースの Messaging Server ではサポートしない予定です。

- 同じサーバルートディレクトリを共有する複数の Messaging Server インスタンス

同じサーバルートディレクトリに複数の Messaging Server インスタンスをインストールする機能には重要性がなくなりました。この機能はまだ実行できますが、今後も実行を続けることはお勧めできません。これに代わり、複数の Messaging Server インスタンスを同じディスクとホスト上にインストールすることができます。ただし、これらのインスタンスは別々のサーバルートディレクトリにインストールされます。次のリリースの Messaging Server では、同じサーバルートディレクトリに複数のインスタンスをインストールする機能は削除される予定です。

- プラットフォームのサポート

- Solaris 2.6 のサポートはこのリリースの時点では重要性がなくなったため、次のメジャーリリースでは削除される予定です。
- Windows NT のサポートはこのリリースの時点では重要性がなくなりました。Windows 2000 のサポートは、将来のリリースで実装される予定です。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

ハードウェア要件

iPlanet Messaging Server の必須ハードウェア要件を、次に示します。

- 製品バイナリおよび最小限のメッセージストアをサポートする、約 1G バイトのディスク容量
- 128 M バイトの RAM
- ユーザのメールボックス (メッセージストア)、データベース、ログファイル、およびメッセージキューディレクトリに十分な容量。サイトのサイズにより、これらの値が大幅に増加する場合があります。このため、サイトのサイズに応じて適切な容量を割り当ててください。

注 Messaging Server の実際のパフォーマンスは、CPU のパワー、使用可能なメモリ、ディスク容量、ファイルシステムのパフォーマンス、使用パターン、ネットワークの帯域幅などの、さまざまな要因によって左右されます。たとえば、スループットはファイルシステムのパフォーマンスに直接関連しています。サイズの割り当てやパフォーマンスについて疑問点がある場合は、iPlanet のご購入元にお問い合わせください。

推奨されるクライアントソフトウェア

Messenger Express のアクセスを可能にするため、Messaging Server は JavaScript 対応のブラウザを必要とします。最適なパフォーマンスを得るため、表 1 に示されているブラウザの使用をお勧めします。

表 1 Messaging Server 5.2 の推奨されるクライアントソフトウェア

ブラウザ	Solaris 2.6 および Solaris 8	HP-UX 11.00	Windows NT、Windows 98、Windows 2000
Netscape™ Communicator	4.76	4.78	4.78
Internet Explorer	なし	なし	5.5 SP2 (Service Pack 2)

Netscape Communicator 6.0 は iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration 1.2 と一緒に使用しないことを強くお勧めします。

サポートされているプラットフォーム

iPlanet Messaging Server は、以下のプラットフォーム上で動作します。

- 推奨されるパッチをインストールした SPARC 版の Solaris 2.6 (「Solaris」を参照)
- 推奨されるパッチをインストールした SPARC 版の Solaris 8 (「Solaris」を参照)
- 推奨されるパッチをインストールした HP-UX 11.0 (「HP-UX」を参照)
- Microsoft Windows NT 4.0 SP6a (「Microsoft Windows NT 4.0」を参照)

注 Solaris 7 は、iPlanet Messaging Server のサポート対象プラットフォームではありません。ただし、Solaris 7 用の Solaris パッチ 106980-10 によって MTA が適切に動作できるようになることが報告されています。

Solaris

サポートされている Solaris プラットフォームには、以下のパッチが必要です。

- SPARC 版 Solaris 2.6: パッチ 105591-09 またはそれ以降のバージョン (C++ 用共有ライブラリパッチ)、106613-01 またはそれ以降のバージョン (文字セット変換)、および以下のリンクに一覧されている推奨パッチ
 - ja_JP.PCK ロケールに Messaging Server をインストールする場合、imadmin コマンドラインユーティリティを正しく動作させるためには、106361-10 パッチが必要です。
- SPARC 版 Solaris 8: 以下のリンクに一覧されている推奨パッチ

Solaris 2.6 および Solaris 8 で必要な推奨パッチのリストは、<http://access1.sun.com> を参照してください。

さらに、Solaris ではローカルサブネットにないホストへの経路を設定する必要があります。この操作を行うには、以下の内容を確認します。

- /etc/defaultrouter ファイルに、ゲートウェイシステムの IP アドレスが含まれていること。このアドレスはローカルサブネット上に存在する必要があります。
- /etc/resolv.conf ファイルが存在し、アクセス可能な DNS サーバ用の適切なエントリと、ドメイン接尾辞が含まれていること
- /etc/nsswitch.conf ファイルの hosts: 行に dns キーワードが含まれていること

HP-UX

HP-UX 11.0 プラットフォームには、以下のオペレーティングシステムのバンドルとパッチが必要です。

- XSWGR1100 (HP-UX 11.0 General Release Patches、2000 年 9 月)
- XSWHWCR1100 (HP-UX 11.0 Hardware Enablement and Critical Patches、2001 年 9 月)
- PHCO_21902 (df (1M) 累積パッチ)
- PHCO_22314 (libc 累積パッチ)
- PHCO_23499 (LVM コマンドの累積パッチ)
- QPK1100 (HP-UX 11.00 Quality Pack、2001 年 9 月)

globalmutex をネイティブの実装に戻すと、パフォーマンスを向上させることができます。これを行うには、以下の HP パッチのいずれかを使用します。

- 11.0 PHKL_23995
- 11i PHKL_24005

HP-UX プラットフォームで iPlanet Web Server が稼動している場合は、該当のマシンに以下のパッチがインストールされていることを確認する必要があります (iPlanet Web Server の詳細は、製品階層および依存関係を参照してください)。表 2 に HP-UX 11.0 (800 シリーズ) 用の必須パッチを示し、表 3 に HP-UX 11.0 (700 シリーズ) 用の必須パッチを示します。

表 2 iPlanet Web Server 用の HP-UX 11.0 (800 シリーズ) の必須パッチ

iPlanet Web Server 用の HP-UX 11.0 (800 シリーズ) パッチ

QPK1100 (HP-UX 11.00 Quality Pack、2001 年 9 月)

XSWHWCR1100 HP-UX Hardware Enablement and Critical Patches、2001 年 9 月

表 3 iPlanet Web Server 用の HP-UX 11.0 (700 シリーズ) の必須パッチ

iPlanet Web Server 用の HP-UX 11.0 (700 シリーズ) パッチ

B8110AA (Java 2 SDK for HP-UX (700/800), PA1.1 + PA2.0 Add On)

B8111AA (Java 2 RTE for HP-UX (700/800), PA1.1 + PA2.0 Add On)

B9098AA (Java 2 Plug-in for HP-UX (700/800))

HPUXEng32RT (English HP-UX 32-bit Runtime Environment)

UXCoreMedia (HP-UX Media Kit)

XSWGR1100 (HP-UX Extension Pack、1999 年 5 月)

XSWHWCR1100 (HP-UX Hardware Enablement and Critical Patches、2001 年 9 月)

QPK1100 (Quality Pack for HP-UX 11.00、2001 年 9 月)

システム上の既存のパッチを識別するには、`swlist` コマンドを使用します。HP-UX パッチをインストールするには、`swinstall` コマンドを使用します。詳細は、HP のマニュアルを参照してください。

HP-UX 11.00 に必要な推奨パッチのリストは、次の URL を参照してください。

<http://us-support.external.hp.com/index.html>

Microsoft Windows NT 4.0

Windows NT 4.0 SP6a (Service Pack 6a) がサポートされています。

チューニング要件

この節では、iPlanet Messaging Server 5.2、iPlanet Web Server、または iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration の実行に必要な、プラットフォーム別のチューニング要件について説明します。

HP-UX

いくつかのカーネルパラメータは、iPlanet Web Server 用にパフォーマンスを最適化するために変更する必要があります。以下の HP-UX シリーズについて説明します。

- HP-UX 11.0 (800 シリーズ)
- HP-UX 11.0 (700 シリーズ)

HP sam (System Administration Manager) ツールを使用して、特定のシステムパラメータを変更し調整します。sam ツールの使用の詳細は、以下のリンクを参照してください。

http://docs.hp.com/cgi-bin/fsearch/framedisplay?top=/hpux/onlinedocs/B2355-90701/B2355-90701_top.html&con=/hpux/onlinedocs/B2355-90701/00/00/25-con.html&toc=/hpux/onlinedocs/B2355-90701/00/00/25-toc.html&searchterms=sam&queryid=20020130-134720

HP-UX 11.0 (800 シリーズ)

- 以下の値はカーネルチューニングの基準ラインであり、これらの値は設定にしたがって変更が必要になることもあります。

表 4 HP-UX 11.0 (800 シリーズ) チューニングのガイドライン

パラメータ	値
<code>maxfiles</code>	2048
<code>maxfiles_lim</code>	2048

表 4 HP-UX 11.0 (800 シリーズ) チューニングのガイドライン (続き)

パラメータ	値
max_thread_proc	3000
maxusers	32
nkthread	6000
nproc	276

HP-UX 11.0 (700 シリーズ)

- HP-UX マシンで iPlanet Web Server 6.0 を適切に動作させるためには、HP-UX マシンの PA-RISC チップのバージョンを判別する必要があります。PA-RISC チップが 2.0 の場合、設定に変更を加える必要はありません。しかし、PA-RISC チップがバージョン 2.0 ではない場合は、`webserver-root/https-admserv/start-jvm` ファイルを修正する必要があります。NSES_JRE_RUNTIME_LIBPATH で、PA_RISC2.0 の出現をすべて PA_RISC に変更します。
- 以下の値はカーネルチューニングの基準ラインであり、これらの値は設定にしたがって変更が必要になることもあります。

表 5 HP-UX 11.0 (700 シリーズ) チューニングのガイドライン

パラメータ	値
maxfiles	2048
maxfiles_lim	2048
max_thread_proc	3000
maxusers	32
nkthread	6000
nproc	276

製品階層および依存関係

iPlanet Messaging Server 5.2 には以下の製品が必要です。

- Netscape Administration Server 4.2
- Netscape Directory Server 4.16 または iPlanet Directory Server 5.1 (詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照)

注 Messaging Server を新たに導入する場合は、iPlanet Directory Server 5.1 と一緒にインストールすることをお勧めします。Netscape Directory Server 4.16 のサポートはこのリリースの段階では重要性がなくなっています。次のリリースの Messaging Server では、Netscape Directory Server 4.x はサポートされません。現時点では、Netscape Directory Server 4.16 に関するサービスは、2003 年 1 月 24 日に終了する予定ですのでご注意ください。

既存の Messaging Server を導入する場合は、Messaging Server を Netscape Directory Server 4.16 とともにインストールできます。サービスクラスまたはカウンタプラグインを使用する場合は、Messaging Server を Netscape Directory Server 4.16 とともにインストールする必要があります。4.1x Directory Server がすでにインストールされている場合、最初に `ims_dssetup` ユーティリティを実行してディレクトリの準備を整えてから、Messaging Server をインストールしてください。

iPlanet Messaging Server と Directory Server を同じマシンに同時にインストールする場合 (評価目的でインストールする場合など) は、Messaging Server のインストールプロセスで Netscape Directory Server 4.16 をインストールできます。

詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

iPlanet Directory Server 用の HA エージェントは存在しないので、iPlanet Directory Server 5.1 で高可用性を使用することはできません。代わりに、ディレクトリ複製など、別のソリューションを使用することができます。代替りの可用性ソリューションについては、『iPlanet Directory Server 導入ガイド』を参照してください。

-
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration 1.2 には、iPlanet Web Server Enterprise Edition 6.0 SP 2 (Service Pack 2) が必要

iPlanet Web Server の場合は、以下のサイトにある iPlanet Web Server 6.0 SP2 リリースノートでオペレーティングシステムに必要なパッチを確認することを強くお勧めします。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/enterprise.html>

iPlanet Delegated Administrator を旧バージョンからアップグレードすることはできません。そのため、iPlanet Delegated Administrator の古いバージョンをアンインストールして、新しいバージョンの Messaging Server にバンドルされている製品のバージョンをインストールする必要があります。

上記の製品はすべて、Messaging Server CD に含まれています。また、<http://www.iplanet.com/downloads/download/> からダウンロードすることもできます。

警告 ユーザやグループのプロビジョニングのために管理コンソールを使用することはお勧めしません。Messaging Server のユーザ、グループ、およびドメインのプロビジョニングツールとしては、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration と imadmin CLI ツールを使用することをお勧めします。

修正済みのバグ

この節では、Messaging Server 5.2 のリリースで修正済みの主なバグについて説明します。

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ

バグ No.	説明	ステータス
4519866	iPlanet Portal Server と統合する際に Messenger Express に変更が加えられる	修正済み
4523668	特定のシナリオで、imsimta dirsyntax プロセスが反応しないことがある	修正済み
4527385	Pentium PC および Pentium Xeon マシンで、SMTP サービスが Windows NT プラットフォームで起動しない。「システムエラー 1067」というエラーメッセージが表示されることがある	修正済み
4528649	Messenger Express で、別のクライアントブラウザでメッセージを読むと顔文字が表示されない	修正済み 顔文字を使用可能にする方法については、以下のマニュアルの更新に関する節を参照 『Messenger Express カスタマイズガイド』
4535457	ブラウザで使用していない文字セットが含まれている HTML 添付ファイルを受信した場合、そのファイルが正しく表示されない	修正済み

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ (続き)

バグ No.	説明	ステータス
4535895	個人アドレスブックで、フィールドの内容を消去することができない	修正済み
4535991	Messenger Express で <code>configutil store.quotawarn</code> パラメータが認識されない	修正済み
4537570	Messenger Express を使用しているときに、「:」の後の Vacation メッセージが切り捨てられる	修正済み
4540398	優先言語の設定を変更しても、その変更がすぐに反映されない	修正済み
4542296	Messenger Express で、一度入力した受取人名を編集することができず、エントリ全体を削除し、再入力する必要がある	修正済み
4546261	Messenger Express で、ユーザ ID に引用符 () が含まれているとログインできない	修正済み
4546908	iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration で、 <code>domain.map</code> ファイルを使用してドメインをカスタマイズできない	修正済み
4547050	ユーザエントリに <code>mailAllowedServiceAccess</code> 属性が設定されていると、 <code>ReplayFormat</code> および <code>ProxyAuth</code> 設定オプションが無視される	修正済み
4547171	メーリングリストを「非表示」に設定すると、個人アドレスブックに表示できなくなる	修正済み
4547268	PLAIN SASL (RFC 2595) の MMP の実装が、プロキシ認証を適切にサポートしない。この実装は、メッセージングシステムを統合する際に役立ちます。	修正済み
4547338	<code>imadmin user modify</code> コマンドで <code>userpassword</code> 属性を変更できない	修正済み
4547342	不完全な回線が読み取られると、POP、IMAP、および MMP サーバで CPU を消費するループが発生する	修正済み
4547375	<code>mailDeferProcessing</code> 属性のサポートが必要になる	修正済み
4547390	同じ IP アドレスが短時間の間に頻繁に接続を行うと、MMP が正しく機能しない	修正済み
4547494	Windows NT プラットフォームで、存在しないホスト宛に送信したメッセージがすぐに拒否されず、拒否されるまで数日の間、送信キューにとどまる	修正済み
4547649	存在期間決定ポリシーを、 <code>configutil</code> コマンドを使用して作成することができない	修正済み

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ (続き)

バグ No.	説明	ステータス
4547684	iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration をインストールする際にカスタムの構成接尾辞を使用すると、コマンドラインインタフェースの設定を読み取らない	修正済み
4547715	Directory Server に接尾辞が存在していない場合に、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration が構成接尾辞を作成しない	修正済み
4547972	Messenger Express で、添付ファイルのファイル名に %20 が含まれていると、%20 がスペースに変換される。Internet Explorer ブラウザを使用している場合のみ	修正済み
4548014	Windows NT プラットフォームで、qmadmin コマンドが適切に機能しないことがある	修正済み
4548228	SMTP クライアントおよびサーバが、大きいメッセージを受信しようとするとき SMTP 接続が中断されるという問題に対処するための機能拡張	修正済み
4548271	Messaging Server のインストーラのアップグレードオプションが Messenger Express ポートを変更する	修正済み
4548279	長い LdapURL を使用すると、ログファイルに意味不明の文字が表示される	修正済み
4548330	1 つの Directory Server に対して複数回インストールを行うと、Messaging Server のインストーラが一意の「Messaging End User Administrator」の作成に失敗する	修正済み このバグの詳細は、「インストールとアンインストール」を参照
4548338	sendmail 行で -f オプションを使用すると、応答がなくなる	修正済み
4548456	メーリングリストメッセージをアーカイブする mailDeliveryFileURL パラメータが機能しない	修正済み
4548498	同じ Directory Server を使用して 2 つ目の Messaging Server インスタンスをインストールする場合に、最初にインストールした Messaging Server に認証しようとするユーザがアクセスを拒否される	修正済み
4549531	メーリングリストに外部モデレータを追加すると、モデレータファイルが空になる	修正済み
4549660	配信通知メッセージがドメイン、ポストマスターに配信されない	修正済み

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ (続き)

バグ No.	説明	ステータス
4549711	差出人の返信用アドレスが長すぎると、imsimta run autoreply コマンドで障害が発生する	修正済み
4549788	Netscape Messaging Server 4.15 から iPlanet Messaging Server に移行すると、個人アドレスブックのユーザおよびグループ名が数字になってしまう	修正済み
4549871	「clean」スクリプトで Administration Server を停止できない	修正済み
4551873	高い負荷がかかっているときに SSL/TLS を使用すると、MMP が応答を止める	修正済み
4550021	iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration で、ドメインの許可されているサービスアクセスが正しく表示されない	修正済み
4550150	-i オプション (大量ロード用) を使用する imadmin コマンドがすべて機能しない	修正済み
4550192	Sun Cluster 2.2 の High Availability エージェントが tcpclnt を必要としない	修正済み
4550394	inetDomainSearchFilter: uid=%U@%V を使用すると、Messaging Server のサービスで問題が発生する	修正済み
4550574	Messenger Express の日本語版と中国語版で、新しいフォルダを作成するときに一意性をチェックすることができない	修正済み
4551230	iPlanet Directory Access Router サーバにポイントすると、Messenger Express が接続の認証を停止する	修正済み
4551606	認証されていないアドレスから特定のメーリングリストへのメッセージによって、TCP_SMTP サーバでループが発生する	修正済み
4551874	iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration で、メールフィルタ名をローカライズできない	修正済み
4551951	DC ツリーが入れ子になっている場合、ユーザのログイン中に Messaging Server のプロセスが CPU を 100% 使用してしまう	修正済み
4552174	Delegated Administrator が不正な DC 接尾辞を検索する	修正済み

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ (続き)

バグ No.	説明	ステータス
4552376	誤って imta.cnf ファイルが job_controller.cnf ファイルに記述されていないジョブプールを使用するように設定してしまうと、ジョブコントローラのログファイルに問題を示すメッセージが書き込まれる	修正済み
4552454	store.idx ファイルの一部が切り捨てられると、popd サービスで問題が発生する	修正済み
4552588	Planet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration で、電話番号フィールドにダッシュと括弧を入力できない	修正済み
4552975	MMP がアクセス制御フィルタに対して誤ったスキーマ属性を使用する。導入時に古い mailAccessDomain 属性を使用すると、default:TCPAccessAttr を mailAccessDomain に明示的に設定することによって古い動作を保持することができる。バグ 4552976 も参照	修正済み
4552976	MMP がアクセス制御フィルタで誤ったデーモン名を使用する。MMP が、POP に popmmp、SSL+POP に spopmmp、IMAP に imapmmp、SSL+IMAP に simapmmp というサービス名を使用する。『スキーマリファレンスマニュアル』に記載されている正しい名前は、pop、pops、imap、および imaps である	修正済み
4554539	複製のホストで MoveUser ユーティリティが失敗する。moveuser コマンドで LDAP エントリを更新したあとで移動先サーバが更新を認識できるように、複製環境で移動先サーバを指定する機能が必要になる。そうしないと、moveuser コマンドが「メールボックスが存在しません」というエラーで失敗する	修正済み
4554830	Windows NT で、imsdirmig コマンドと imsdacaci コマンドを実行するために、DLL ファイル libyasr.dll と nsldap32v40.dll を、server-root¥bin¥msg¥lib からこれらのコマンドが置かれているディレクトリ (server-root¥bin¥msg¥migrate¥bin) にコピーしなければならない	修正済み
4554958	imsdirmig 移行ツールの実行時に、-l オプションが機能しない	修正済み
4554984	imsdirmig 移行ツールで、Netscape Messaging Server のポストマスターエントリの処理に失敗する	修正済み
4555096	SSL が有効なときに Delegated Administrator のコマンドラインインタフェースを使用すると、エラーが発生する	修正済み

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ (続き)

バグ No.	説明	ステータス
4555129	HP-UX 11.0 で、imadmin から iPlanet Web Server への SSL をオンにするために、設定を追加しなければならない	修正済み
4555165	Windows NT で、ジョブコントローラとディスパッチャがログファイルを作成するように設定されているのに、ログファイルが作成されない。ジョブコントローラとディスパッチャが、job_controller.cnf ファイルと dispatcher.cnf ファイルにあるデバッグパラメータを処理するように変更されている	修正済み
4555280	imadmin purge コマンドでユーザの個人アドレスブックのエントリが削除されない	修正済み
4555895	自動返信オプションファイルの RESEND_TIMEOUT オプションが機能しない	修正済み
4556184	ホストドメイン内のドメイン組織のユーザがログインすることができない	修正済み
4556364, 4556455	MMP が LDAP サーバの障害を適切に処理できない	修正済み
4556840	クライアントが SSL を使用して MMP に接続するときに SSLBacksidePort オプションが設定されていないと、バックエンドサーバに接続するときに MMP が SSL を使用しない	修正済み
4557739	iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration をインストールすると、マージされたスキーマサポートで問題が発生する	修正済み。4547375 を参照
4558397	ユーザインタフェースがローカライズされていないユーザがデフォルト言語のユーザインタフェースを使用すると、自国語で Vacation メッセージを作成または編集できない	修正済み
4558613	認証済みの差出人が、メーリングリストの外部メンバーの場合、そのリストにメッセージを送信することができない	修正済み
4561852	Solaris プラットフォームで、大きなバックログが存在すると、ジョブコントローラが予期せず終了することがある	修正済み
4559903	(UNIX の場合のみ) MMP に 32768 のファイルディスクリプタというハードコード化された制限があり、これによって 16384 以上の認証済みプロキシ接続を開くことができない。この制限が 32768 より大きいと、MMP は、ファイルディスクリプタに対する強い制限値を条件とする OS を使用する	修正済み

表 6 iPlanet Messaging Server 5.2 の修正済みバグ (続き)

バグ No.	説明	ステータス
4559935	Messaging Server のアップグレード時に、Administration Console の .jar ファイルが更新されない	修正済み
4559946	Messaging Server のアップグレードプロセスによって、job_controller.cnf ファイルと dispatcher.cnf ファイルが上書きされる。アップグレードプロセスの詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照	修正済み
4560035	SMTP が SSL クライアント証明書の認証をサポートしない	修正済み
4562609	HA 環境で、アップグレードプロセスが失敗することがある	修正済み
4562655	共通の Users and Groups Directory Server を使用する 2 つの Messaging Server を別々にインストールする場合、インストーラで Messaging End User Administrator グループに msg-admin-xxx アカウントが追加されない	修正済み
4565800	Windows NT で、JSS ライブラリが正しくインストールされない	修正済み
4568384	サービス管理者グループがすでに存在する場合、2 番目の Messaging Server を追加すると、そのサーバのサービス管理者がサービス管理者グループに追加されない	修正済み
4574052	ims_dssetup スクリプトの o=internet で指定したデフォルトに、ユーザの許可が必要になる。 ims_dssetup.pl スクリプトの詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照	修正済み
4577147	複製した User and Group Directory Server を使用している場合に、Messaging Server のインストールが失敗する	修正済み
4578747	store.expirerule.name.foldername.folderpattern 属性を使用している場合に、意図していないのにメッセージが削除されてしまう	修正済み
4616156	ファイルをメッセージ配信キューから手作業で削除すると、配信プロセスがすでに削除されているメッセージを繰り返し配信しようとする可能性がある。この配信試行は 10 秒遅れることがある	修正済み

既知の問題、制限事項、および注意事項

この節では、iPlanet Messaging Server とそのコンポーネントについての既知の問題、制限、および注意事項について説明します。この節は、以下の項で構成されています。

- インストールとアンインストール
- 移行
- アップグレード
- iPlanet Messaging Server
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration
- iPlanet Messenger Express
- iPlanet Console

インストールとアンインストール

Messaging Server のインストールおよびアンインストールに関する既知の問題や注意事項は以下のとおりです。

注 iPlanet Messaging Server 5.1 の場合、Directory Server 以外のサーバはインストーラによって起動されません。

- Windows NT で、Messaging Server と Messaging Multiplexor (MMP) コンポーネントを同じマシンにインストールする場合、2つのコンポーネントを同時にインストールしなければならない (4538016)
 - `ims_dssetup.pl` スクリプトに、サーバルートインストールディレクトリにあるバージョンの Perl が必要である (4538055)
 - Windows NT で、iPlanet Messaging Server コンポーネントのチェックボックスをオフにしておかないと、Messaging Multiplexor (MMP) コンポーネントだけのインストールに失敗する (4538240)
- MMP だけをインストールしたい場合は、以下の手順に従って MMP を選択する必要があります。そうしないと、インストールに失敗します。

- a. 「インストールするコンポーネント」画面で iPlanet Messaging Server コンポーネントのチェックボックスをオフにします。
- b. 「変更」ボタンをクリックします。
- c. 「インストールするサブコンポーネント」画面で「iPlanet Messaging Multiplexor」を選択します。

- 既存の構成ディレクトリを使用している場合、そのディレクトリからユーザ / グループディレクトリが決定される (4538276)
- UNIX および Windows NT で、カスタムインストール中にカスタムメールストアを指定する場合、インストール後に手作業でディレクトリを作成しなければならない (4538305)

UNIX プラットフォームでは、このディレクトリは iPlanet Messaging Server のユーザとグループによって所有されており、権限 750 が設定されている必要があります。

- Sun Cluster 2.2 および Veritas Cluster Server 1.1 環境で、iPlanet Messaging Server のアンインストールに失敗する (4538376)

Sun Cluster 2.2 または Veritas Cluster Server 1.1 を使用している場合は、Messaging Server を手作業でアンインストールする必要があります。

警告 以下の手順を実行すると、メッセージストアを含むすべてのコンポーネントがアンインストールされます。

- a. すべてのサービスを停止します。
 - b. *server-root* ディレクトリを削除します。
 - c. */etc/msgregistry.inf* ファイルの名前を変更します (ファイルを削除するのではなく、ファイルを移動するか名前を変更することをお勧めします)。
- Messaging Server を Windows プラットフォームにインストールするときに、Administration Server コンポーネントもインストールしなければならない (4537320)
インストールプログラムを使用するときは、Windows NT バージョンに Administration Server コンポーネントをインストールする必要はありませんが、Messaging Server のインストールに成功することが必須です。
 - Messaging Server を空のディレクトリまたは存在しないディレクトリにインストールしなければならない (4540131, 4543405)
Messaging Server は、空のディレクトリまたは新しいディレクトリにインストールする必要があります。このディレクトリには、マウントポイントとして機能するサブディレクトリを含めることはできません。Messaging Server のインストールが完了したあと、任意にマウントポイントを作成できます。
また、iPlanet Messaging Server をアンインストールしたあと、再インストールするときに同じ *server-root* ディレクトリを使用しようとすると、エラーが発生することがあります。再インストールを実行する際は、新しい *server-root* ディレクトリを使用する必要があります。
 - Windows NT で、インストール中にサーバファイアウォール画面が表示されると、「Enter」キーが機能しない (4540156)
「Enter」キーを使用する代わりに、「次へ」ボタンをクリックします。
 - アンインストール時に、*/usr/lib/sendmail* リンクがリストアされない (4540185)

アンインストールプロセス中に、sendmail プログラムがリストアされません。これは、インストール時にプログラムの名前が sendmail.bk に変更されたためです。sendmail をリストアするには、インストールプログラムを実行したあとに sendmail.bk の名前を sendmail に変更します。

- 高速インストール中に、インストーラがランダムに管理ポートを選択する (4540494)

Messaging Server のインストール時には、インストーラで指定した管理ポート番号を書き留めておく必要があります。このポート番号は、管理コンソールを使用する際に必要になります。高速インストール中は、管理ポート番号はユーザが指定するのではなく、インストーラがランダムに選択します。管理コンソールを起動すると、インストール時に選択した管理ポート番号を入力するよう求められます。ポート番号がわからない場合は、`server-root/admin-serv/config/adm.conf` に記録されているので参照してください。

- HP-UX プラットフォームで、スマートホストオプションのインストール画面でオプション 1 (スマートホストを使用することを示す) を選択すると、Messaging Server のインストールに失敗することがある (4541640)

対処: スマートホスト名を明示的に指定してから、「Return」を押します。

- Message Transfer Agent (MTA) をリレーとしてインストールする際に、メッセージストアのインストールが必要になる (4542767, 4575870)

メッセージストアはインストール後に無効にすることができます。

- Windows プラットフォームで、スペースを含むインストールパスがサポートされていない (4547759)

たとえば、以下のようなインストールパスは機能しません。

```
C:¥Program Files¥iPlanet¥Server5
```

この例では、Program Files の中にスペースが含まれているので、この `server-root` ディレクトリパスを使用すると、インストールに問題が起きます。

- 2 つ目の Messaging Server インスタンスのインストール後、ACI がなくなる (4548498)

Messaging End User Administrator Group は、組織ツリーのルートに移動しました。前のバージョンの Messaging Server から Messaging Server 5.2 へのアップグレードの間、旧バージョンのグループはデフォルトドメインとともに残ります。しかし、アップグレードの間、関連するすべての ACI が組織ツリーのルートにある新しいグループを適切に参照しません。これが操作に影響することはありますが、混同しないように古いグループを手作業で削除することを強くお勧めします。

- ベース DN にスペースが含まれていると、インストールが失敗する (4557494)

Messaging Server と Directory Server を一緒にインストールするときに、スペースが含まれている接尾辞を指定した場合は、インストール後にその DN の下で以下のような修正を加える必要があります。

- 正しい接尾辞を示すように `nsdirectoryurl` 属性を修正します。たとえば、接尾辞が `my varrius.com` の場合、`nsdirectoryurl` は最初に `ldap://sesta.siroe.com:389/o=my` を読み取ります。
次に、`nsdirectoryurl` 属性を以下のように変更します。
`ldap://sesta.siroe.com:389/o=my varrius.com`
- `nsdirectoryfailoverlist` 属性を空白の値に設定して変更します。
- Sun Cluster 2.2 が、Messaging Server のあるファイルシステムのマウントポイントを適切に判別しない (4558563)

iPlanet Messaging Server Sun Cluster 2.2 エージェントの制限により、Messaging Server は `$LOGICAL_HOSTNAME` 環境変数によって決定される既定のマウントポイントにインストールする必要があります。

- Messaging Server が iPlanet Directory Server 5.x とともにインストールされていると、両方のサーバを管理するために 2 つのコンソールを使用しなければならない (4560710)

サーバの管理に Console インタフェースを使用する場合は、iPlanet Directory Server 5.x を管理するためのコンソールと iPlanet Messaging Server 5.2 を管理するためのコンソールが必要です。iPlanet Directory Server 5.x を管理する場合は、その Directory Server の `server-root` から `startconsole` を実行して iPlanet 5.0 Console を起動します。iPlanet Messaging Server 5.2 を管理するには、Messaging Server の `server-root` から `startconsole` コマンドを実行します。このコマンドを実行すると、Netscape 4.2 Console が起動します。どちらのコンソールがどちらのサーバに対応するかを覚えておいてください。Netscape Console 4.2 からは iPlanet Messaging Server 5.2 の管理だけを行い、iPlanet Console 5.0 からは iPlanet Directory Server 5.x の管理だけを行います。

- インストールに成功したにもかかわらず、インストールログにエラーメッセージが含まれている (4576422)

インストールに成功したにもかかわらず、インストールログにエラーメッセージが含まれていることがあります。

UNIX の場合、「サーバの管理を開始するには、`server-root` に移動して「start console」と入力してください」というメッセージが表示されたら、インストールは完了です。このメッセージの `server-root` の部分には、`/usr/iplanet/server5` のような Messaging Server のインストールディレクトリへの絶対パスが表示されます。

Windows NT の場合、README ファイルの表示またはシステムの再起動について尋ねるプロンプトが表示されたら、インストールは完了です。

- Veritas Cluster 環境で、Messaging Server とともにインストールされている Directory Server が、サポートされている HA サービスではない (4616151)

現在のところ、Veritas Cluster のフレームワークには Directory Server 用の HA エージェントがないため、Directory Server は HA サービスとしては稼動しません。

- インストール時にデフォルトのドメインを MTA ホスト名と同じ名前にすることができない (4627536)

コンピュータに Messaging Server をインストールする際は、コンピュータの完全指定ドメイン名と同じ名前のデフォルトドメインを指定しないでください。

- `store.dbtmpdir` のデフォルト位置が、Solaris プラットフォームの `/tmp` ディレクトリをポイントする (4633090)

メールボックスリストデータベースの一時ディレクトリ (`store.dbtmpdir configutil` パラメータによって定義されている) が過度にアクセスされています。このパラメータの値はインストール時には定義されず、デフォルトは `server-root` のサブディレクトリです。大規模なサイトで、`mboxlist` データベースの一時ディレクトリを格納するディスクが十分に高速でない場合は、パフォーマンスの問題が発生することがあります。

このパラメータの値は、パフォーマンスとチューニング手順の一環として定義する必要があります。

移行

この節では、旧バージョンの Messaging Server から移行する際の既知の問題、制限事項、および注意事項について説明します。

- Sun Internet Mail Server から移行する場合、プロビジョニング用のデフォルトのホストがリセットされない (バグ ID なし)

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration のサポートを追加したあと、iPlanet Delegated Administrator のユーザインタフェースに古い Sun Internet Mail Server が表示されることがあります。たとえば、ドメインメールのプロパティページで、ユーザを作成してそのユーザ用のメールサービスを有効にしようとする、古いバージョンの Sun Internet Mail Server メールホストがリストに表示されます。これは、Sun Internet Mail Server ドメインからの移行の際に、`preferredMailHost` ドメイン属性が保持されるためです。この問題を解決するには、適切なメールサーバをポイントするようにこの属性値を変更します。

- LDAP 内の UID 属性に大文字が含まれていると、SIMS から移行したあとに問題が発生する (バグ ID なし)

LDAP 内のユーザの `uid` 属性に、Kolander の K のように大文字が含まれていると、SIMS から iPlanet Messaging Server に移行したあと、そのユーザは移行されたメールボックスにアクセスできなくなります。

SIMS はすべてのメールボックス名を小文字で保存しますが、iPlanet Messaging Server は違います。また、SIMS は LDAP の `uid` 属性を小文字に変換してからメッセージストア内でその `uid` に一致するメールボックス名を検索しますが、iPlanet Messaging Server は違います。移行の際に、SIMS メールボックスは iPlanet Messaging Server にリストアされます。この時、メールボックスは SIMS から移行されたため、名前はすべて小文字です。iPlanet Messaging Server は LDAP の `uid` 属性を小文字に変換しないため、大文字を含む `uid` 属性は、移行されたメールボックスの名前と一致しません。大文字を含む `uid` 属性を持つメールユーザは、自分のメールボックスにアクセスできません。

管理者がこの問題を解決するには、以下の 2 つの方法があります。

- a. ほとんどの場合は、この方法をお勧めします。移行時に、デフォルトの `imsrestore` コマンドラインユーティリティではなく、`imsrestore` に名前変更オプション `-u` を付けて実行します。LDAP 内のユーザの `uid` と一致させるために、ユーザのメールアドレス名 (すべて小文字) のどの文字を大文字にする必要があるかを確認し、該当の文字を大文字に変更します。以下に、このコマンドの例を示します。

```
imsrestore -u filename
```

ここで、`filename` は以下のようなエントリを含むファイルの名前です。

```
kolander = Kolander
```

名前変更オプションを使用するときは、ユーザ ID のドメイン部分の文字 (たとえば、`sesta.com`) を変更しないように注意してください。この部分については小文字のままにしておかないと、ユーザがログインしたときにメールアドレス名が認識されません。

`imsrestore` を使用してユーザの名前を変更する方法については、『iPlanet Messaging Server リファレンスマニュアル』を参照してください。

- b. LDAP の `uid` 属性をすべて小文字に変更します。ただし、多くのサイトでは複数のアプリケーションで LDAP が必要とされるため、`uid` 属性を変更すると他のアプリケーションに影響を及ぼす可能性があります。
- **Netscape Messaging Server 4.x からディレクトリエントリを移行するときに、LDAP フィルタを指定しなければならない (4554984)**

Netscape Messaging Server 4.x からディレクトリエントリを移行するときに、既存の Netscape Messaging Server のポストマスターエントリを除外する LDAP フィルタを指定します (`imsdirmig` の引数として `-F` を使用)。このようなフィルタの一例は、`-F "(! (cn=postmaster))"` です。このフィルタによって、移行プロセスからポストマスターエントリが除外されます。このようなフィルタが指定されていない場合は、エラーが発生したあとも強制的に処理を続行させる引数 `-c` が指定されていない限り、エラーが発生すると `imsdirmig` はポストマスターエントリの処理に失敗し、終了します。

- **Netscape Messaging Server 4.15 から iPlanet Messaging Server 5.2 に個人アドレスブック (PAB) を移行する際に、以下の手順を実行する必要がある (4557878)**

- a. マルチスキーマサポートを有効にするときに、`ns-schema.conf` ファイル内の `ns-pab-schema.conf` をコメントアウトします。
- b. `ims_dssetup` ユーティリティを実行したあとに、PAB エントリを保持するディレクトリサーバで以下の属性のインデックスを生成しなおす必要があります。

l. `memberOfPAB [index type pres,eq]`

ll. `memberOfPABGroup [index type pres,eq]`

`ims_dssetup` ユーティリティの実行については、『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の第 3 章にある「単サーバの Netscape Messaging Server システムからの移行」の、「移行手順」のステップ 3 を参照してください。

上記の属性のインデックスの再生成については、
<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/directory/41/admin/index1.htm#1008974>にある iPlanet Directory Server のマニュアルを参照してください。

- c. iPlanet Messaging Server をインストールしたあと、以下のようにして PAB の移行を有効にする必要があります。

```
configutil -o local.service.pab.migrate415 -v on
```

サーバのインストールについては、『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の第3章にある「単サーバの Netscape Messaging Server システムからの移行」の、「移行手順」のステップ7を参照してください。

- ユーザ名に大文字と小文字が含まれている SIMS 3.5 のバックアップデータを復元するときに、imsrestore コマンドが失敗する (4631123)

SIMS 3.5 サーバが大文字のユーザ名を処理する方法に矛盾があります。結果として、バックアップファイルに大文字と小文字のユーザ名が混在しています。カタログ内のユーザ名がフォルダと一致しないと、imsrestore コマンドはユーザをリストアしません。

アップグレード

この節では、iPlanet Messaging Server のアップグレードの際の既知の問題、制限事項、および注意事項について説明します。

- アップグレードプロセスの間にカスタマイズを行うと、Messenger Express のユーザインタフェースが失われる (バグ ID なし)

アップグレードプロセスは、*server-root/msg-instance/html* ディレクトリにあるファイルをバックアップし、それらを *server-root/msg-instance/backup.timestamp* に保存します。*timestamp* は、インストールを実行した時間を示します。

- アップグレード中に、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration に関する情報の入力を求める不必要なプロンプトが表示される (4538472)

ユーザに対しては、1 画面あたり 1 つずつ、3 つの画面でプロンプトが表示されます。ユーザが入力を求められる 3 つの項目は、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration のホスト名 (完全指定ホスト名)、Web Server ポート、およびデフォルトドメインです。サーバがこれらの情報を必要としない場合でも、最も簡単な対処法は、以下の例で示すように求められた情報を指定することです。

サーバのホスト名: *ims.india.sesta.com*

サーバのポート番号: *80*

デフォルトのドメイン: *india.sesta.com*

- Sun Cluster 3.x を使用しているときに Messaging Server 5.2 にアップグレードする際、以下の手順が必要になる (4547718)

旧バージョンの iPlanet Messaging Server とともに Sun Cluster 3.0、Sun Cluster 3.0 Update 1、あるいは Sun Cluster 3.0 Update 2 がインストールされている場合、iPlanet Messaging Server 5.2 にアップグレードするには、最初に Messaging Server のインストールをアップグレードする必要があります。『iPlanet Messaging Server インストールガイド』のアップグレードに関する付録を参照してください。

Messaging Server のインストールが完了したあと、各クラスタノードに Messaging Server 5.2 CDROM から SUNWscims パッケージをインストールする必要があります。詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』の HA のインストールの章 (特に、Sun Cluster 3.0 U1 および U2 エージェントのインストールに関する節) を参照してください。このプロセスによって、Messaging Server の HA エージェントがアップグレードされます。

- mboxutil と reconstruct が、mboxlist パーティションと mailMessageStore 属性を現行の状態で保つ必要がある (4547986)

旧バージョンの iPlanet Messaging Server からアップグレードしている場合は、ユーザとグループの LDAP ディレクトリサーバにある既存の 2 つの ACI に変更を加える必要があります。

組織ツリーのベース接尾辞とドメインコンポーネントツリーのベース接尾辞には、特定のユーザ属性にエンドユーザ管理者アカウントの書き込みアクセスを許可する ACI があります。既存の ACI に mailMessageStore 属性を追加する必要があります。

これらの ACI は、組織およびドメインコンポーネントツリーのルートノード上にあります。変更すべき ACI の名前は、Messaging Server End User Administrator Write Access Rights - product=ims5.0, class=installer, num=101, version=1 です。

該当の ACI を変更するための最良の方法は、Directory Server Console を使用することです。

- Windows NT プラットフォームで imsimta クリーンアップユーティリティが機能しないため、Windows NT プラットフォームで Messaging Server を 5.1 から 5.2 にアップグレードすると、MTA プロセスがハングする (4634975)

Messaging Server 5.2 にアップグレードする前に、stop-msg.bat を使用して Messaging Server プロセスを停止し、`server-root\msg-instance\imta\tmp` ディレクトリ内の *.share ファイルを手作業で削除します。*.share ファイルもアップグレード後に削除できますが、その時点でプロセスがハングしないように、ファイルを削除する前にシステムを再起動する必要があります。

- MTA 設定ファイルのなかには、アップグレード後になくなってしまいう設定もあります。 (4638109)

旧バージョンの Messaging Server の設定ファイルはアップグレードプロセス中にバックアップされて使用されるため、Messaging Server 5.2 の MTA 設定ファイルの「初期設定」はアップグレードには組み込まれていません。このため、アップグレードプロセスのあと、設定ファイルは新しい変更を取り上げません。

旧バージョンの MTA 設定ファイルのカスタマイズと Messaging Server 5.2 の設定ファイルにある新しい設定を組み込むための 2 つの方法の手順を、以下に概略します。

方法 1: 旧バージョンの MTA 設定ファイルに新しい設定を追加する

- a. Messaging Server 5.2 にアップグレードします。アップグレードの手順については、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

b. 以下のように、設定ファイルに設定を追加します。

- I. `imta.cnf` ファイルで、`ims-ms` チャネルの `subdirs 20` のあと (ただし、`backoff` の前) に `notices 1 7 14 21 28` を追加します。

たとえば、以下のように記述します。

```
ims-ms defragment subdirs 20 notices 1 7 14 21 28 backoff "pt5m"  
"pt10m" "pt30m" "pt1h" "pt2h" "pt4h" maxjobs 1 pool IMS_POOL  
fileinto $U+$S@$D filter ssrd:$A
```

- II. `mappings` ファイルで、ファイルの末尾に以下の行を追加します。

```
<IMTA_TABLE:mappings.locale
```

- III. `aliases` ファイルで、デフォルトのエイリアスを以下のエントリに変更します。

UNIX プラットフォームの場合：

```
root@default_domain: postmaster  
root@localhost: postmaster  
postmaster@localhost: postmaster
```

Windows NT プラットフォームの場合：

```
postmaster@localhost: postmaster
```

`default_domain` は自分のデフォルトのメールアドレス、`localhost` は Messaging Server がインストールされているホストの名前と置き換えます。

- IV. `option.dat` ファイルで、以下の行を削除します。

```
QUEUE_CACHE_MODE=2
```

方法 2: カスタマイズした設定を、旧バージョンの MTA 設定ファイルから Messaging Server 5.2 の設定ファイルに追加する

警告

次の MTA 設定ファイルは、以下の手順で上書きされます。

`imta.cnf`、`mappings`、`aliases`、`option.dat`、`native_option`、および `channel.cat`

この手順を実行する前に、必ず上記のファイルをバックアップしてください。アップグレードによって `server-root/msg-instance/imta/config` ディレクトリのバックアップが作成されます。

- a. UNIX オペレーティングシステムの場合は、以下の手順に従ってください。
 - I. Messaging Server 5.2 にアップグレードします。アップグレードの手順については、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。
 - II. 次の `server-root/msg-instance/imta/config` ディレクトリに移動します。
 - III. `orig` という名前のディレクトリを作成します。
 - IV. `imta.cnf`、`mappings`、`aliases`、`option.dat`、`native_option`、および `channel.cat` ファイルを、`orig` ディレクトリに移動します。
 - V. `server-root/msg-instance/imta/config` ディレクトリから、`imta.cnf`、`mappings`、`aliases`、`option.dat`、`native_option`、および `channel.cat` ファイルを削除します。
 - VI. `server-root/setup/msg/iplanet-msg-install.log` ファイルの末尾から `jre -cp` コマンドを実行します。この JRE コマンドは `imtaconfig.jar` ファイルを実行します。
 また、このコマンドは、`cmdpath` (JRE コマンドへのパスであり、`jre -cp` コマンドに追加する必要がある) と、`runpath` (このコマンドを実行するディレクトリ) も指定します。
`server-root/msg-instance/iplanet-msg-install.log` ファイルに以下のエントリがある場合

```
MESSAGE: running command
jre -cp
"/usr/iplanet/server5/bin/msg/imta/classes/imtaconfig.jar"
com.iplanet.msg.imta.config.InitConfig -v -d west.siroe.com -r
west.siroe.com -h ketu.west.siroe.com -c
/usr/iplanet/server5/msg-ketu/imta/config
cmdpath: /usr/iplanet/server5/bin/base/jre/bin
runpath: /usr/iplanet/server5/msg-ketu/imta/config
```

jre -cp コマンドの実行例は以下のとおりです。

```
# mkdir orig
# mv imta.cnf mappings aliases option.dat native_option
channel.cat orig
# cd /usr/iplanet/server5/msg-ketu/imta/config
# /usr/iplanet/server5/bin/base/jre/bin/jre -cp ¥
"/usr/iplanet/server5/bin/msg/imta/classes/imtaconfig.jar" ¥
com.iplanet.msg.imta.config.InitConfig -v -d west.siroe.com ¥
-r west.siroe.com -h ketu.west.siroe.com -c ¥
/usr/iplanet/server5/msg-ketu/imta/config
```

JRE コマンドはその出力を imtaconfig.log ファイルに追加します。

VII. 以下のコマンドを実行して、新しい設定を有効にします。

```
# cd server-root/msg-instance
# ./imsimta cnbuild
# ./imsimta refresh
```

- b. Windows NT オペレーティングシステムの場合は、以下の手順に従ってください。
- I. Messaging Server 5.2 にアップグレードします。アップグレードの手順については、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。
 - II. 次の `server-root¥msg-instance¥imta¥config` ディレクトリに移動します。
 - III. `orig` という名前のディレクトリを作成します。
 - IV. `imta.cnf`、`mappings`、`aliases`、`option.dat`、および `channel.cat` ファイルを `orig` ディレクトリに移動します。
 - V. `server-root¥msg-instance¥imta¥config` ディレクトリから、`imta.cnf`、`mappings`、`aliases`、`option.dat`、および `channel.cat` ファイルを削除します。
 - VI. `c:¥temp¥iplanet-msg-install.log` の末尾から `jre -cp` コマンドを実行します。この JRE コマンドは `imtaconfig.jar` ファイルを実行します。
また、このコマンドは、`cmdpath` (JRE コマンドへのパスであり、`jre -cp` コマンドに付加する必要がある) と、`runpath` (このコマンドを実行するディレクトリ) も指定します。

c:¥temp¥iplanet-msg-install.log ファイルに以下のエントリがある場合、

```
MESSAGE: running command
jre -nojit -cp
"C:¥iPlanet¥Server5¥bin¥msg¥imta¥classes¥imtaconfig.jar"
com.iplanet.msg.imta.config.InitConfig -d west.siroe.com -r
west.siroe.com -h ketu.west.siroe.com -c
C:¥iPlanet¥Server5¥msg-ketu¥imta¥config -N
cmdpath: C:¥iPlanet¥Server5¥bin¥base¥jre¥bin
runpath: C:¥iPlanet¥Server5¥msg-ketu¥imta¥config
```

jre -cp コマンドの実行例は以下のとおりです。

```
C:¥iPlanet¥Server5¥bin¥base¥jre¥bin¥jre -nojit -cp
"C:¥iPlanet¥Server5¥bin¥msg¥imta¥classes¥imtaconfig.jar"
com.iplanet.msg.imta.config.InitConfig -d west.siroe.com -r
west.siroe.com -h ketu.west.siroe.com -c
C:¥iPlanet¥Server5¥msg-ketu¥imta¥config -N
```

JRE コマンドはその出力を imtaconfig.log ファイルに追加します。

VII. 以下のコマンドを実行して、新しい設定を有効にします。

```
cd server-root¥msg-instance
imsimta cnbuild
imsimta refresh
```

- Windows NT プラットフォームで、アップグレード後に ENS サービスが自動起動に設定されない (4638111)

特に設定を変更しない限り、Messaging Server 5.1 では、ENS サービスは手動起動に設定されています。ただし、Messaging Server 5.2 では、ENS サービスは再起動時に自動起動します。Messaging Server 5.2 にアップグレードしても、この設定が手動から自動には変わりません。

対処法: 以下の手順で、ENS サービスのデフォルトの設定を手動起動から自動起動に変更します。

- アップグレード後に、コントロールパネルから「サービス」を選択します。
- iPlanet ENS サービスを選択します。
- 「起動」をクリックします。

- d. 「Start Type」を「Manual」から「Automatic」に変更します。
- e. 「OK」をクリックします。

アップグレードの前に ENS サービスを起動する場合は、手作業でシャットダウンしないと、msglinks.nt.inf を実行できないことを示すメッセージが表示されてアップグレードが失敗します。iplanet-msg-install.log は、libchartable.dll ファイルを削除できないことを示します。

iPlanet Messaging Server

この節では、iPlanet Messaging Server に関する既知の問題、制限事項、および注意事項について説明します。

- ユーザ ID に以下の文字を使用できない
\$ ~ = # * + % ! @ , { } () / < > ; : ' " [] & ? (バグ ID なし)

これは、ダイレクト LDAP モードで操作しているときの iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration と MTA による制約です。ユーザ ID にこれらの文字を使用できるようにすると、メッセージストアで問題が発生することがあります。MTA で禁止されている文字のリストを変更したい場合は、ASCII 値のカンマ区切り文字列のリストから次のオプションを設定します。

```
LDAP_UID_INVALID_CHARS="32,33,34,35,36,37,38,40,41,42,43,44,47,58,59,60,61,  
62,63,64,91,92,93,96,123,125,126"
```

を、*server-root/msg-instance/imta/config/options.dat* ファイルに設定します。この制約を緩和することはお勧めしません。

- SMTP サーバのデフォルトの動作が、Messaging Server 5.2 リリース後の次のメジャーリリースで変更される (バグ ID なし)

SMTP サーバのデフォルトの動作は、さまざまな改行記号を簡単に受け入れてしまいます。現在のところ、smtp キーワードは、tcp チャネル上の smtp_crorlf チャネルキーワードと同じ意味です。この動作は最初の SMTP 仕様 (RFC 821) には準拠していますが、最新の SMTP 仕様 (RFC 2821) には準拠していません。

Messaging Server (Messaging Server 5.2 リリースのあと) の次のメジャーリリースで、smtp キーワードの意味と tcp チャネルのデフォルトの動作は改訂された規格に準拠します。具体的には、smtp キーワードは smtp_crlf チャネルキーワードと同義になります。詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』の「チャネル定義を設定する」の章の「チャネルプロトコル選択と改行記号」の項を参照してください。

- メールストア用に NFS がサポートされていない (バグ ID なし)

open と o_excl が非原子的である、などの理由によって NFS はサポートされていません。この技術は、さまざまなスレッド間の据え置き処理を同期させる際に使用します。

- 通知をカスタマイズおよびローカライズする (バグ ID なし)

通知をカスタマイズまたはローカライズするには、ロケールまたはカスタマイズ、あるいはその両方のそれぞれに `return_*.txt` ファイルの全セットを作成し、それを別々のディレクトリに保存します。たとえば、あるディレクトリにはフランス語の通知ファイル、もう1つのディレクトリにはスペイン語の通知ファイルを保存し、3つめのディレクトリには特殊な不特定多数宛てメールに対する通知を保存することができます。このリリースには、フランス語、ドイツ語、およびスペイン語のサンプルファイルが含まれています。これらのファイルは、ユーザのそれぞれのニーズに合わせて変更することができます。通知メッセージのカスタマイズとローカライズの詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』の第6章を参照してください。

- Solaris オペレーティング環境でネームサービスキャッシュドメイン (nscd) が動作していない場合に、サービスが無効になることがある (4353836)

Solaris の既知の問題です。この問題を回避するには、nscd サービスが動作していることを確認してください。nscd の詳細については、Solaris のマニュアルページを参照してください。

- imsimta dirsync を使用するとき、メール転送アドレスフィールドが 1024 文字に制限される (4532764)

imsimta dirsync オプションを使用する場合、すべての転送アドレスの合計文字数が 1024 文字に制限されます。すべての転送アドレスの合計文字数が 1024 文字を超える場合は、メーリングリスト機能を使用することをお勧めします。MTA ダイレクト LDAP 機能を使用する場合、この制限はありません。

- Solaris プラットフォームの ko ロケールで ldapsearch コマンドが失敗する (4533913)

このため、Messaging Server を ko ロケールでインストールすると、インストールは失敗します。

対処法: Directory Server を Messaging Server とは別の *server-root* ディレクトリにインストールします。そのあと、Directory Server で、ko ロケールではなくデフォルトの C ロケールを使用して、手作業で `ims_dssetup.pl` を実行します。

または、ko_KR.EUC、ko.UTF-8、あるいは ko_KR.UTF-8 などの別の韓国語ロケールを使用して Messaging Server をインストールすることもできます。

- Directory Server バージョン 4.x で、ACI が LDAP 検索パフォーマンスに重大な影響を及ぼす (4534356)

この問題は、iPlanet Messaging Server が実行するさまざまな検索に影響を及ぼし、特に dirsync ユーティリティを使用するとき顕著に現れます。検索の速度を上げるには、以下のコマンドを使用して、ディレクトリへのアクセスにディレクトリマネージャの証明を使用します。

```
msg-instance/configutil -o local.ugldapbinddn -v "rootdn" -l
msg-instance/configutil -o local.ugldapbindcred -v "rootdn_passwd" -l
```

ここで、*rootdn* および *rootdn_passwd* は、Directory Server の管理者の資格を示します。

現在は、ダイレクト LDAP 検索機能を利用できるため、imsimta dirsync コマンドを使用する必要はありません。詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照してください。

- iPlanet Messaging Server 5.1 で、mail.log_current への SMTP ログがデフォルトで無効になっている (4535717, 4564207)

SMTP ログを有効にする方法については、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』のログとログ解析に関する章を参照してください。

- Messaging Server の新しいサイトで Sun Cluster 3.0 High Availability を使用したい場合に、Sun Cluster 3.0 Update 1 または 2 の使用が必要になる (4536098)

Sun Cluster 3.0 Update 1 以降のインストールと設定については、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

- 電子メール専用メンバーのダイナミック検索条件を適切にテストできない (4537597)

Messaging Console から電子メール専用メンバーのグループにダイナミック検索条件を追加しようとして、ダイナミック検索条件をテストするテストボタン (LDAP URL ともいう) が正しく動作しません。グループの電子メールメンバーの機能がこの制限によって破壊されることはありません。

- stored コマンドが、サーバをバインドする (高可用性の設定など) 固有のインタフェースアドレスを認識しない (4538253)

stored が INADDR_ANY だけしか認識しません。これは、このリスンソケットがこのマシンのすべての IP アドレスをリスンしていることを指定する、サーバが内部的に認識している定数値です。

- MMP BadGuy の設定パラメータ BGExcluded が機能しない (4538273)

この問題は、BadGuy 規則から除外されているクライアントを処理する、別の MMP サーバを配置することで対処できます。これらのサーバでは BadGuy をオフにする必要があります。

- configutil を使用して加えた変更を反映させるために、該当のサーバを再起動しなければならないことがよくある (4538366)

- libimtamap.so が imta_tailor ファイルをパースしない (4538645)

たとえば、以下のような libimtamap.so を使用するマッピングエントリを使っているときは、

```
* $C$[IMTA_LIBMAP,imap_is_in_list_of_ip,$2|IMTA_TABLE:/ip.txt|$$Y]$E、  
imta_tailor ファイルからの変数置換が必要な文字列は使用しないでください。代わりに、以下  
のような完全なディレクトリパスを書く必要があります。
```

```
* $C$[IMTA_LIBMAP,imap_is_in_list_of_ip,$2|/iplanet/server5/msg-siroe/imta/  
config/ip.txt|$$Y]$E
```

- Directory Server でノードを作成するときに、Messenger Express 内の個人アドレスブックが一定数のオブジェクトクラスしかサポートしない (4539553)

ユーザツリー階層に "ou", "o", "dc", あるいは "c" 以外のノードが含まれているときは、並列 PAB 階層を手作業で作成する必要があります。たとえば、ユーザが dept=1234,o=acme.com の下にいる場合は、dept=1234,o=acme.com,o=pab を作成する必要があります。

- ユーザを管理コンソールで作成するとき、そのユーザを正しい DIT レベルで配置する (4539837)

ユーザまたはグループを管理コンソールから作成するときは、選択した組織単位 (ou) がユーザまたはグループを作成したい場所であることを確認してください。これを行うには、ドロップダウンリストを使用して「新しい組織単位」を選択してから、「作成」をクリックします。

「組織単位 (ou) の選択」ウィンドウで、組織単位が属しているディレクトリツリー (ou) を選択します。任意のディレクトリサブツリーにカーソルを置くと、組織単位の完全な DN が表示されます。

- Netscape ブラウザのある Solaris クライアントで、ブラウザが開いたままになっていると管理コンソールでヘルプを起動できない (4539844, 4541748)

管理コンソールからヘルプを起動できない場合は、以下のような「netscape」という名前のスクリプトを作成し、このスクリプトをパスに含めます。

```
#!/bin/sh
NETSCAPE=/usr/dt/bin/netscape # または実際の Netscape へのパス
EXITCODE=0
if [ "$1" = "-remote" ]
then
    $NETSCAPE $@ 2>/tmp/_netscape_remote_$$
    if [ $? -ne 0 -o -s /tmp/_netscape_remote_$$ ]; then EXITCODE=1 ; fi
    rm /tmp/_netscape_remote_$$
    exit $EXITCODE
else
    $NETSCAPE $@
fi
```

- Windows NT で、ブラウザが開いていると、管理コンソールからヘルプを起動できない (4539844)

Windows NT では、ブラウザが開いていると管理コンソールからヘルプを起動できません。ブラウザが開いていない場合は、管理コンソールがブラウザを起動し、ページが表示されます。この問題に対処するには、`server-root\bin\base\viewurl.exe` を別の場所に移動するか、ファイルの名前を、たとえば `viewulr.exe.hide` のように変更します。

- 8 ビット文字を入力できないフィールドがある (4539912)

ローカライズされた環境で Administration Console 4.2 で新しいユーザを作成するとき、「名」、「姓」、および「Common Name」フィールドに 8 ビット文字 (たとえば、Ë) を入力できないことがあります。

対処法: 8 ビット文字をコンソール以外のアプリケーションで入力してから、<Control> + V を使用してその文字を管理コンソールにコピー & ペーストするか、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration を使用します。

- ユーザが Messaging System に接続しているときに `mboxutil -r` オプションを使用すると、移動が正常に行われず、メールボックスを一部しか移動できないことがある (4540006)

メールボックスを別のパーティションに移動するときは、`mboxutil -r` オプションを使用する前に、Messaging Server からユーザを切断する必要があります。メールボックスを移動したあとで、ユーザをサーバに再接続します。

- 外部 SMTP 接続で CRAM-MD5/DIGEST-MD5 が機能しない (4540532)

CRAM-MD5/DIGEST-MD5 をオンにするという指示は、「外部」SMTP 接続 (デフォルトでは、ローカルホストからではないすべての接続) に対しては機能しません。ただし、IMAP/POP および内部 SMTP 接続に対しては機能します。この問題を解決するには、以下のコマンドを実行してください。

```
configutil -o sasl.external.ldap.has_plain_passwords -v 1
```

- **Messaging Console で mailautoreplysubject に複数言語がサポートされない (4540780)**

Messaging Server Console の自動返信の件名行には、複数言語がサポートされていません。mailautoreplysubject;lang-XX 属性 (XX は言語) が Messenger Express または iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration にすでに設定されている場合、mailautoreplysubject 属性を Messaging Console から表示または変更することはできません。これは、コンソールが、mailautoreplysubject;lang-XX 属性ではなく mailautoreplysubject 属性を検索するためです。

- **Administration Server のアクセス制御ホスト名の大文字と小文字が区別される (4541448)**

Administration Server の「アクセスを許可するホスト名」を設定すると、アクセス制御リストで大文字と小文字が区別されます。DNS サーバが IN-ADDR レコード (IP アドレスからドメイン名への変換に使用される) で大文字と小文字が混在するホスト名を使用している場合は、アクセス制御リストでも同様のホスト名を使用する必要があります。たとえば、ホストが test.Sesta.Com の場合は、アクセス制御リストに *.Sesta.Com が含まれている必要があります。このバグのため、*.sesta.com は有効ではありません。

たとえば、ユーザ / グループのベース接尾辞が o=isp の場合、サービス管理者グループの DN は cn=Service Administrators,ou=groups,o=isp になります。アカウント uid=ofanning、o=sesta.com、o=isp をサービス管理者として指定するには、このアカウントの DN をグループに追加する必要があります。以下の変更レコードでは、指定したユーザが LDIF でグループメンバーとして追加されています。

```
dn: cn=Service Administrators,ou=groups,o=isp
changetype:modify
add:uniquemember
uniquemember: uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp
```

さらに、ユーザにサービス管理者権限を与えるには、ユーザエントリに memberof 属性を追加し、この属性をサービス管理者グループに設定する必要があります。以下に例を示します。

```
dn: uid=ofanning, o=sesta.com, o=isp
changetype:modify
add: memberof
memberof: cn=Service Administrators, ou=groups, o=isp
```

- **コマンドラインで有効期限規則を作成することができない (4542514)**

たとえば、configutil -o store.expirerule.name.folderpattern -v pattern のようなコマンドは、有効期限規則名が存在しないとエラーを返します。

コマンドラインではなくコンソールを使用してください。有効期限規則を作成したあとで、`configutil` ユーティリティを使用してパラメータを変更することができます。

- ドメインキャッシュが更新されない (4542726)

キャッシュスキームのため、認証済みサービスなどのドメインプロパティや LDAP 内のステータスを変更しても、IMAP、POP、SMTP、および HTTP サービスを再起動するまで変更は反映されません。

- 有効期限規則にある % 文字が正しく機能しない (4542729)

- コンソールが MMP の `sslpasword.conf` を作成しない (4542738)

SSL 証明書をコンソールから作成すると、`sslpasword.conf` ファイルが作成されません。この問題は、コンソール、Administration Server、および MMP だけがインストールされていて、Messaging Server や Directory Server がインストールされていないときに発生します。

- `mgrpErrorsTo` 属性が単一の値の属性である (4543159)

`mgrpErrorsTo` 属性は、複数の値をサポートしません。エラーメッセージの受取人を複数指定する場合は、メーリングリストを作成し、そのアドレスを `mgrpErrorsTo` 属性の値として指定します。

- グループ属性 `mgrpMsgRejectAction` が機能しない (4543187)

iPlanet Messaging Server では、`mgrpMsgRejectAction` 属性がサポートされていません。

- IMAP の匿名ログインがサポートされていない (4543259)

- IMAP メールクライアントとして Microsoft Outlook Express を使用している場合に、既読フラグと未読フラグが正しく機能しないことがある。これは、Microsoft Outlook Express クライアントの既知の問題である (4543930)

この問題に対処するには、以下の設定変数を設定します。

```
configutil -o local.imap.immediateflagupdate -v yes
```

この方法で対処するときパフォーマンス上の問題が発生した場合は、この方法を使用しないことをお勧めします。

- `quotacheck` ユーティリティのオプションに、適切に機能しないものがある (4555153)

`quotacheck` ユーティリティでは、ドメインを指定するための `-d` オプションは、デフォルトドメインに対しては機能しません。さらに、`-u` オプションと `-n` オプションが指定されていると、`quotacheck` ユーティリティは誤ったエラーメッセージを返します。

- Netscape ブラウザのある Solaris クライアントで、適切に表示されない日本語の漢字フォントがある (4558408)

Netscape ブラウザは、`unicode` フォントサイズ (たとえば、10) では日本語の漢字を適切に表示しないことがあります。この問題を解決するには、ブラウザの `unicode` フォントサイズを 14 に変更します。

- プログラム配信機能を使用するには、Messaging Server ユーザにホームディレクトリが必要である (4560660)

プログラム配信機能を使用する場合、iPlanet Messaging Server のユーザにホームディレクトリがあり、そのディレクトリ内でファイルを作成および書き込みをする権限を持っている必要があります。

- Solaris で、コンソールの起動時に、Sun Cluster 環境に関連する関係のないエラーメッセージが表示されることがある (4562861)

たとえば、以下のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Cluster.PMF.pmf: Error opening procfs control file
/proc/384/ctl for tag rg.rs.0.svc: No such file or directory
```

このようなメッセージは無視してもかまいません。

- 増分 dirsync と HA. (4566005)

HA フェイルオーバー時に増分 dirsync が進行中の場合、エイリアスデータベースが安全ではないものとしてマークされます。Messaging Server がオンラインに戻るときに、管理者にこの状況が通知されます。log/imta/dirsync.trx-XXXX ファイルに以下のメッセージが表示されます。

```
WARNING: sync_init: .dirsync_unsafe exists; database may be corrupted
```

このような状況が発生したときは、imsimta recover-crash を実行します。

最後に imsimta dirsync -F コマンドを実行したあとで行った更新は、すべて失われます。imsimta recover-crash を実行したあと、imsimta dirsync -F を実行します。

MTA ダイレクト LDAP 機能を使用している場合、この問題は発生しません。

- 短い時間 (デフォルトは 15 分)、削除のマークを付けたユーザのアカウントにログインできる (4576530, 4588068)

IMAP、POP、および HTTP サーバは、service.authcachettl 設定パラメータで指定されている期間にわたって、最近ログインしたユーザの LDAP エントリをキャッシュに保持します。ユーザの削除をただちに有効にするには、認証キャッシュなしでサーバを稼働させるか、configutil ユーティリティを使用して service.authcachettl を 0 に設定することによって認証キャッシュをオフにし、すべてのサービスを再起動します。0 に設定するとパフォーマンスに影響が出ることに注意してください。

Messaging Multiplexor (MMP) にも同じ問題がありますが、MMP は configutil を使用しません。MMP には設定ファイルに別の AuthCachTTL オプションがあります。

- MoveUser ユーティリティが失敗したときに、エラーメッセージは印刷されるが、リターンコード 0 (成功) で終了する (4620764)

要求に応じてホットフィックスを利用することができます。

- mail.log_current ファイルにサイズ制限がある (4621317)

mail.log_current ログファイルは、サイズが 2G バイトになるとそれ以上大きくなりません。

- /etc/hosts ファイルで省略形のドメインを使用すると、アクセス制御フィルタが動作しない (4629001)

/etc/hosts ファイルに省略形のドメイン名があると、アクセス制御フィルタでホスト名を使用するときに問題が発生します。IP アドレス検索が省略形のドメイン名を返すと、照合は失敗します。このため、/etc/hosts ファイルでは必ず完全指定ドメイン名を使用してください。

- HA 環境で、`service.http.smtphost configutil` パラメータが正しく設定されていないと、Messenger Express からメッセージを送信できない(4631446)

対処法: `ha_ip_config` スクリプトを実行したあとで、以下の `configutil` コマンドを実行します。

```
server-root/msg-instance/configutil -o service.http.smtphost -v logical_IP
```

`ha_ip_config` スクリプトの実行については、『iPlanet Messaging Server UNIX 用インストールガイド』の高可用性の章を参照してください。

- Windows NT プラットフォームで、`imsimta cleandb` コマンドが適切に機能しない(4634687, 4634692)

Windows NT で、`imsimta cleandb` コマンドが `server-root\msg-instance\imta\tmp` ディレクトリにある `*.share` ファイルを削除しません。

対処法: `server-root\msg-instance\imta\tmp` ディレクトリにあるすべての `*.share` ファイル (`__db_lock.share` ファイル、および `__db_mpool.share` ファイル) を、手作業で削除します。これらのファイルは、MTA プロセスによって使われていないときしか削除できません。このため、`*.share` ファイルを削除する前に、まず `imsimta shutdown` コマンドを使用して MTA プロセスを停止する必要があります。

- `imta.cnf` ファイル内の MTA ダイレクト LDAP のコメントが正しくない(4637048)

`imta.cnf` ファイル内の以下のようなコメントにある書き換え規則は、正しくありません。

```
! Uncomment the next line for Direct LDAP mode
! $* $E$F$U%$H@budgie.siroe.com$V$H
```

書き換え規則は以下のように記述されていなければなりません。

```
! Uncomment the next line for Direct LDAP mode
! $* $E$F$U%$H$V$H@budgie.siroe.com
```

- Sun Cluster 3.0 U2 (Update 2) で、`Retry_count` 限界に達しても `nsldap` リソースが `STOP_FAILED` になり、このリソースグループがフェイルオーバーを実行しない(4638310)

この問題は Sun Cluster 3.0 U2 (Update 2) の既知の問題であり、スレッドのモニタを始めてから停止するまでの状態が原因で発生します。Sun Cluster のバグ No. 4498808 および 4368936 を参照してください。

対処法: 以下のコマンドに **-y Retry_count = 1** を追加します。『iPlanet Messaging Server UNIX 用インストールガイド』の「Sun Cluster 3.0 U1 および U2 の Messaging Server HA サポートの構成」を参照してください。

```
# scrgadm -a -j ha-ldap -t SUNW.nslldap -g IMS-RG ¥
-x Confdir_list=/global/ims/server5/slapd-mail ¥
-y Retry_count=1
-y Resource_dependencies=ha-storage
```

- iPlanet Directory Server 5.1 に対応する Server Group をクリックしようとしても、Netscape Console 4.2 が反応しない (4643634)

iPlanet Directory Server 5.1 と Messaging Server を同じマシンにインストールした場合に、Administration Console に、Directory Server (Server Group) と Messaging Server (Server Group (2)) という 2 つの Server Group が表示されます。Server Group (Directory Server のサーバグループ) をクリックすると、コンソールが反応しなくなり、端末ウィンドウにエラーメッセージが表示されます。iPlanet Console 5.0 で Messaging Server (Server Group (2)) をクリックすると、同じように端末ウィンドウにエラーメッセージが表示され、実行している操作は失敗しますが、コンソールが反応しなくなることはありません。

対処法: Netscape Console の場合、*msgserver-root/java/jars* ディレクトリにある以下のファイル *ds51.jar*、*ds51_en.jar*、*admserv51.jar*、および *admserv51_en.jar* を、名前が同じでバージョンの長さが 0 のファイルと置き換えます。Netscape Console で Server Group をクリックすると、以下のエラーメッセージが表示され、不注意によって間違ったサーバにアクセスできないようになります。

```
Failed to install local copy of ds51.jar or one of its supporting
files: not a ZIP file (END header not found)
Failed to install a local copy of admserv51.jar or one of its
supporting files: not a ZIP file (END header not found)
```

iPlanet Console の場合、同じように *dirserver-root/java/jars* ディレクトリにある以下のファイル *msgadmin52.jar*、*msgadmin52.icon*、*msgadmin52_en.jar*、*mcc42.jar*、*mcc42_en.jar*、*admserv42.jar*、*admserv42_en.jar*、*admserv42.icon*、*nmclf42.jar*、および *nmclf42_en.jar*

を、バージョンの長さが 0 のファイルと置き換えます。iPlanet Console で Server Group (2) をクリックすると、エラーメッセージが表示され、不注意によって間違ったサーバにアクセスできないようになります。

インストールとアンインストールのバグ No. 4560710 も参照してください。iPlanet Directory Server 5.1 と Messaging Server の詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』の付録 A を参照してください。

- `local.store.expire.workday` 属性が、デフォルト値 ("") から -1 に変更された場合、stored プロセスがこの変更を認識しない (4646601)

対処法: デフォルト値を "" ではなく -2 に指定してください。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration についての既知の問題は以下のとおりです。

プロビジョニングユーティリティ `imadmin` を使用するには、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration をインストールする必要があります。

- iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration が現時点ではポータルな連携をサポートしない (バグ ID なし)

これに加え、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration のシングルサインオンは、標準のポータルゲートウェイからは作動しません。今後リリースされる予定のホットフィックスについては、技術サポートにお問い合わせください。

- iPlanet Web Server が、デフォルトの最小および最大 JVM ヒープサイズで起動しないことがある (4524374)

`webserver-root/https-instance` ディレクトリにある `jvm12.conf` ファイルで、`minHeapSize` を 3.5M、`maxHeapSize` を 64M に増やします。

- Internet Explorer ブラウザがキャッシュに書き込まれた情報を使用することがある (4535742)

Internet Explorer を使用しているときは、キャッシュの設定を、ページにアクセスするたびに、保存されている Web ページから更新されたものをチェックするように設定してください。「自動的に確認する」に設定すると、キャッシュ値が最新のものではないページが表示されることがあります。

- 属性をサービスクラス (MailQuota など) から設定すると、サーバがこの属性を優先するにもかかわらず iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration に表示されない (4537434)

対処法: `ldapsearch` を実行し、必ず属性リスト内の属性が返されるように指定してください。

- Windows NT で、ネイティブメール配信がサポートされない (4537964)

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration を使用する際には、Windows NT サーバをメールホストとしているユーザの配信オプションとしてネイティブを選択しないでください。このようなユーザの唯一のメール配信オプションとしてネイティブを選択すると、メールメッセージが差出人に返送されます。返送メッセージは、数日後にならないと送信されません。

ユーザが不適切な配信メソッドを選択したためにメールを配信できないという返送メッセージがすぐに送信されるようにしたい場合は、`msginstance/imta/config/imta.cnf` に以下の書き換え規則を追加してください。

`native-daemon $?unix/` ネイティブ配信はサーバでサポートされていません

- Delegated Administrator for Messaging and Collaboration の GUI を使用しているときに、トップレベル管理者しかファミリーグループからユーザを削除できない (4538101)

サービス、ドメイン、ファミリーグループの管理者は、コマンドラインインタフェースで `imadmin family-member remove` コマンドを使用して、ファミリーグループからユーザを削除できます。

- サブドメインがすでに存在する場合、ドメインを作成できない (4538206)

サブドメインがホストドメインとしてすでに作成されていると、Messaging Server のプロビジョニングツール (iPlanet Delegated Administrator GUI および `imadmin` コマンド) でホストドメインを作成できません。たとえば、`sales.sesta.com` を最初に作成した場合、あとでホストドメインとして `sesta.com` を作成することはできません。

`sesta.com` をホストドメインとして定義するには、追加のオブジェクトクラスを使って `sesta.com` の既存のエントリをオーバーレイする方法を決定します。その手順は、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。また、`sesta.com` ドメインに対して、必要な ACI をすべて含む組織コンテナを作成し (『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』の付録 A を参照)、ドメイン管理グループを作成する必要もあります。

- Delegated Administrator for Messaging and Collaboration の GUI の「メールフィルタ」タブのオプション「宛先」は、「宛先または Cc」である (4538445)
- Delegated Administrator の設定を、ユーザ / グループディレクトリとは別のディレクトリに保存できない (4538853)

Messaging Server Deployment で Configuration Directory と User/Group Directory が別々にある場合、iPlanet Delegated Administrator の構成は、User/Group Directory から専用のディレクトリに保存されません。iPlanet Delegated Administrator の構成は、ユーザ / グループディレクトリに保存する必要があります。

- Solaris プラットフォームで、`/etc/resolv.conf` ファイルにドメイン名が設定されていない場合、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration のインストールが予期せず終了する (4539065)

- トップレベル管理者の「マイアカウント」ページからメーリングリストを作成、管理できない (4540027)

トップレベル管理者としてログインしても、メーリングリストを作成したり管理したりできません。この問題に対処するには、「マイアカウント」アイコンをクリックする前にホストドメインのいずれかにトラバースします。

- ドメイン組織名に複数バイト文字を含むドメインを作成できない (4540113)
- 既存のユーザ / グループサブツリー (ドメインコンテナ DN) で新しいドメインを作成できない (4540234)

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration では、新しいドメインを作成し、そのドメインに既存のユーザ / グループサブツリーをポイントさせることができます。このサブツリーには、ドメイン管理者およびポストマスターグループが含まれている必要があります。ただし、ユーザ / グループツリーのルート接尾辞の下にあるドメイン管理者グループの無効チェックが行われるため、既存のユーザ / グループサブツリーをポイントさせると、ドメインの作成に失敗します。

この問題に対処するには、これらのグループをルート接尾辞の下に作成します。これらのグループを作成するための LDIF を以下に示します。この LDIF の例で使用している変数は、インストールの際には適切な値に置き換える必要があります。

BASE SUFFIX = ホストドメインのユーザ / グループツリーのルート接尾辞 (例: *o=sesta.com*, *o=isp*)

DOMAIN NAME = 追加するドメインの名前

LDIF の例 : ドメイン管理者グループを作成する

```
dn: cn=Domain Administrators,ou=groups,BASE SUFFIX
objectclass: top
objectclass: groupOfUniqueNames
objectclass: nsManagedDept
objectclass: inetMailAdministrator
nsmaxusers: Unlimited
mailadminrole: storeadmin
cn: Domain Administrators
nsnumusers: 0
```

LDIF の例 : ポストマスターグループを作成する

```
dn: cn=Postmaster,ou=groups,BASE SUFFIX
objectclass: top
objectclass: groupOfUniqueNames
objectclass: inetMailGroup
objectclass: inetLocalMailRecipient
objectclass: inetMailGroupManagement
objectclass: nsManagedMailList
mail: postmaster@DOMAIN NAME
mailalternateaddress: postmast@DOMAIN NAME
inetmailgroupstatus: active
cn: Postmaster
nsnumusers: 0
```

- iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration の Web インタフェースを使用し て共通名 (cn) および cn:lang-xx 属性を変更できない (4540372)

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration では、cn および cn:lang-xx 属性を作成できますが、これらの属性を変更するためのインタフェースはありません。これらの属性を変更するには、`imadmin user modify` で `-A` オプションを使用します。管理者は、cn を変更することはできますが cn:lang-xx 属性を変更することはできません。

- 「新規ユーザの作成」ウィンドウでサービスクラスのテンプレートを割り当てることができない (4540504)

サービスクラスのテンプレートは、ユーザを編集しているときは割り当てることができますが、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration でユーザを作成している間は割り当てることができません。

- iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration をアップグレードできない (4541709)

アップグレードするには、以下の手順を実行します。

- a. 以下の設定ファイルをバックアップします。

```
IDA_root/nda/classes/netscape/nda/servlet/resource.properties
```

- b. 既存の iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration をアンインストールします。
- c. ディレクトリから設定サブツリーを削除します。設定サブツリーは、`IDA_ROOT/nda/classes/netscape/nda/servlet/resource.properties` 内の `NDADefaultConfiguration-basedn` プロパティで指定されています。
- d. 新しいバージョンの iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration をインストールするときは、バックアップした `resource.properties` ファイル内の情報を使用してインストール時の質問に回答します。

- iPlanet Directory Server 5.1 を使用している場合に、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration を使ってカウンタプラグインを有効にすることができない (4547885)

ユーザ、メールリスト、およびドメインのカウンタを有効にする場合は、Netscape Directory Server 4.16 を使ってそのカウンタプラグインを有効にすることができます。ただし、iPlanet Directory Server 5.1 を使用している場合、これらのカウンタプラグインは利用できません。このため、iPlanet Directory Server 5.1 を使用している場合、ドメイン内のユーザまたはグループの数を制限することはできません。

- iPlanet Web Server のパブリッシュ機能に iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration との互換性がない (4554965)

Web Server のパブリッシュ機能は、デフォルトではオフになっています。この機能はオンにしないでください。

- `imadmin user purge` ユーティリティを使用してドメイン組織のユーザを削除することができない (4621763)

- Subject フィールドが自動応答規則に保存されない (4627074)

ユーザ用の自動返信メッセージを設定し、同時に複数の言語で複数の自動返信サブジェクトとメッセージ本文を入力する場合は、1つの言語で1回入力するたびに変更を保存する必要があります。すべての言語に対する変更を入力し、それらの変更を一度に保存しようとする、自動返信メッセージ内の情報の一部が欠けるか、適切に保存されません。

- SSL を使用して imadmin CLI を実行すると、Windows NT 4.0 SP6 のデュアルプロセッサで Web サーバへの接続が機能しない (4627754)
- Windows NT で、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration が、プログラム配信内のディレクトリパス名のバックスラッシュ (\) または円記号 (¥) を正しく解釈しない (4632631)

対処法: ディレクトリパス名を指定するときにスラッシュ (/) を使用してください。

- iPlanet Directory Server 5.x のサービスクラス機能が iPlanet Delegated Administrator 1.2 for Messaging and Collaboration と互換性がない (4635892)
- Internet Explorer 5.5 SP2 (Service Pack 2) を使用している場合、iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration を使用して (たとえば、ユーザ編集インタフェースを使用して) 加えた変更が保存されないことがある (4637890)

iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration で行った変更が保存されていないときに、「保存」または「適用」ボタンが機能していないように見える場合は、Tab キーを押して、最後に変更したフィールドからカーソルの位置を移動します。そのあと、「保存」または「適用」ボタンを押して変更を保存します。

- 「メールリストの作成 / 編集」ウィンドウでメンバー、モデレータ、認証済み、あるいは認証されていない差出人を追加しているとき、「検索と追加」ウィンドウでユーザを選択してからユーザの選択を解除すると、選択を解除できない (4637892)

対処法: 「検索と追加」ウィンドウを閉じてから、再度開きます。

- 「メールフィルタ」タブに英語のまま表示されるプルダウンメニューがある
「header-line」(ヘッダ行) および「filesize unit」(ファイルサイズ単位)
- 「OK」ボタンのある確認ウィンドウに、関数名がそのままアクション名として英語で表示される場合がある

iPlanet Messenger Express

iPlanet Messenger Express についての既知の問題は以下のとおりです。

- 標準のポータルゲートウェイを使用しているときに、Messenger Express のシングルサインオンが機能しない (バグ ID なし)

今後リリースされる予定のホットフィックスについては、技術サポートにお問い合わせください。

- 個人アドレスブック (PAB) が、待ち時間に関する問題のため、複製の LDAP サーバで連動しない (4541432)

この問題に対処するには、PAB が LDAP マスターをポイントするようにします。

- スペルチェッカーが、ドイツ語のウムラウト (Ü) を正しく認識または表示しない (4546195)

スペルチェッカーは、ウムラウト (Ü など) を含む文字のあとに二重引用符が付いていると解釈します (たとえば, "u")。このため、ウムラウトを含む単語を表示すると、スペルチェッカーは文字とそのあとに二重引用符を表示します。

- Netscape Communicator を使用しているときに、まれにメッセージによってブラウザが停止してしまうことがある (4549239)

対処法: この問題はまれにしか発生しませんが、その場合は Internet Explorer version 5.5 SP2 (Service Pack 2) を使用してください。

- Internet Explorer 5.0 で、大きなメッセージを送信済みフォルダに入れると、メッセージの一部が切り捨てられる。(4558055)

タイミングの問題のため、メモリが少なく速度の遅いマシンで 5.5 SP1 より前の Internet Explorer を使用すると、大きいメッセージの一部が切り捨てられます。Internet Explorer 5.5 SP2 を使用することをお勧めします。

- Netscape Communicator でギリシャ語の Messenger Express を使用すると、さまざまな問題が発生する。(4560999)

javascript ダイアログまたは IMAP のいずれかに関連して、誤作動が発生することがあります。このような問題が発生する場合は、別のブラウザを使用することをお勧めします。

- Solaris で Netscape Communicator ブラウザを使用しているときに、日本語 EUC ロケールで問題が発生する (4561469, 4561550).

Solaris で Netscape Communicator 4.x を使用しているとき、日本語 EUC ロケールでメッセージの vcard が文字化けします。

Solaris で Netscape Communicator 4.x ブラウザを使用しているときは、日本語の名前のファイルを添付することはできません。

- Netscape Communicator 4.x と Messenger Express を併用しているとき、ウィンドウのサイズを変更するとセッションが Inbox メッセージのリストに戻る (4579429)

- Solaris オペレーティング環境で Netscape Communicator 4.76 を使用しているときに、Messenger Express で空白の画面が表示されることがある (4581879)

対処法: 空白の画面で右マウスボタンをクリックし、「フレームの再読み込み」を選びます。Web ブラウザを再起動する必要はありません。

- フォルダ内のメッセージの数が 1 ページを超えたときに、フォルダの最後のページからメールを取得すると、エラーが発生する (4618291)

この問題は、Solaris 2.6 オペレーティング環境または Windows NT プラットフォームで Messaging Server を使用しているときや、Messenger Express のクライアントが Windows 98 または Windows 2000 プラットフォームのいずれかで Internet Explorer 5.5 SP2 (Service Pack 2) の Web ブラウザを実行しているときに発生します。

- Directory Server 5.1 を使用しているときに、個人アドレスブックにある 1 つの連絡先として、複数の電子メール ID を入力できなくなる (4633171)

Directory Server の動作は適切な動作です。複数の電子メール ID を入力できるのは、Netscape Directory Server 4.x のバグによるものです。

- クライアントの Web ブラウザが Internet Explorer 6.0 の場合、「送信」または「下書きを保存」をクリックするとエラーが発生する (4633206)

クライアントの Web ブラウザとして Internet Explorer 6.0 を使用している場合、「フォルダ」タブから「作成」ウィンドウを開き、メッセージを作成してから「送信」または「下書きを保存」をクリックすると、Javascript エラーが発生します。エラーが発生しても、メッセージは、「送信」をクリックすれば問題なく送信され、「下書きを保存」をクリックすれば保存されます。

- Messenger Express の GUI に英語のまま表示されるメッセージがある。たとえば、
 - a. 「作成」ウィンドウにある、テキストや HTML 関連のメニュー
 - b. スペルチェッカーの対話式メニュー
- 現在のスペルチェッカーは、日本語をサポートしていない
- 日本語文字列の折り返しが正しく行われな部分がある (例: 「作成」ウィンドウの「宛先:」ラベル) (4624779)

iPlanet Console

- iMS の UI 中にある「ヘルプ」ボタンが、UI リファレンスガイドに記載されている正しい場所を表示しないものがある

マニュアルの変更点

ここでは、iPlanet Messaging Server 5.2 のマニュアルの誤りや変更について説明します。

注 オンライン版の『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』には、CD 版に含まれていない最新情報が記載されています。オンライン版は、
<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/messaging.html> から
 アクセスできます。

Messenger Express カスタマイズガイド

この節では、『iPlanet Messenger Express カスタマイズガイド』の誤りや変更について説明します。

- メッセージ内で顔文字を使用可能にする方法の説明 (4528649)

顔文字を有効にするためには、顔文字の .gif ファイルがある場所のフルパスを main.js ファイル (msgserver-root/html ディレクトリにある) 内の iconHREF 変数に割り当てる必要があります。

たとえば、顔文字ファイルが msgserver-name/imx/ ディレクトリにある場合は、iconHREF で以下のように main.js ファイルを設定する必要があります。

```
var iconHREF = 'http://msgserver-name/imx/'
```

デフォルトでは顔文字の .gif ファイルは msgserver-root/html/imx にありますが、別のディレクトリにコピーすることもできます。/imx/ ディレクトリにある顔文字ファイルは、以下のとおりです。

```
angel.gif、angry.gif、grin.gif、devil.gif、smile.gif、laugh.gif、love.gif、  
sad.gif、winkwink.gif、sleep.gif
```

設定された URL は、公共のインターネットにアクセス可能である必要があります。これは、顔文字を表現するために、Messenger Express を使用して生成されたメッセージがこれらの URL への参照を含むためです。

- Messenger Express をドメインごとにカスタマイズする方法の説明 (4535761)

Messenger Express のクライアントインタフェースは、ドメインごとに部分的または全体的にカスタマイズすることができます。これを行うには、html ディレクトリの下にドメイン名を含むディレクトリを作成します。このディレクトリを、元のディレクトリ階層からカスタマイズしたファイルとともに作成します。たとえば、siroe ドメインのアイコンだけを変更したい場合は、siroe.com's imx ディレクトリで新しいアイコンを追加し、main.js 内でそれに対する参照を変更する必要があります。

```
html/... // default interface  
html/imx/... // default interface  
html/en/... // default interface  
html/siroe.com/main.js // refers to imx/cat.gif  
html/siroe.com/imx/cat.gif
```

ログイン後、サーバは、ユーザーエージェントを参照して domain/lang/main.html ファイルを取り出します。これは、インタフェースの残りの部分を参照するファイルです。クライアントは、ディレクトリでのインタフェースを構成するすべてのファイルを要求します。これらのファイルは、存在する場合は表示されます。存在しない場合は、デフォルトの設定ファイルへのフォールバックが発生します。ドメインが複数あっても、明確なものがわずかしかなければ、リンクを使用してサーバに正しいバージョンを使用させることができます。

```
html/... // default interface  
html/address.com/... // customized interface for brand 1  
html/sabrina.com -> address.com // sabrina uses brand 1's interface
```

- URL からのドメイン

サーバは、ログインが行われるまですべての IP アドレスをリッスンし、カスタマイズされたインタフェースを表示したままにすることができます。これは URL の確認によって行われ、ドメインごとのログイン画面を示す既知のドメインがあるかどうかを判別します。

たとえば、`http://webmail.sabrina.com/` のようなドメインごとのログイン画面では、サーバは `html/sabrina.com/en/default.html` というページを送信します。

この場合、ログインのためにユーザが自分の名前に `@domain` を付加する必要はありません。

- HTML/JS ファイルを編集したあと、`mshttpd` が再起動する (4536952)

`server-root/msg-instance/html` に加えた変更を反映するためには、サーバを再起動する必要があります。

- フォルダリストのヘッダーフィールドをカスタマイズする方法の説明 (4538915)

デフォルトでは、フォルダリストにはヘッダーフィールドとして受信日付、差出人の電子メール ID、件名、および X-priority が表示されます。これらのヘッダーフィールドをカスタマイズするために、`server-root/msg-instance/html/msg_fs.html` ファイルの `listFrameHTML()` および `header()` 関数を変更することができます。

- 「コード例 3-12、アドレスウィンドウのテキストを変更した場合」が機能しない (4538955)

このコード例が機能しないのは、`in18n.js` 内の `i18n_ldap_controls()` 関数からエントリを取ることができないためです。この問題に対処するには、`instanceroot/html/lang_code/lookup_fs.html` ファイル内のディレクトリサーバ名を適切なディレクトリサーバ名に変更します。この名前は、`s_SearchCtrl` 関数に定義されています。

- ユーザのデフォルト LDAP 属性のカスタマイズ (4571687)

このガイドには以下の情報が不足しています。

Messenger Express サーバは、セッションの開始時にユーザの LDAP 属性のデフォルトセットをロードします。ロードされる属性は以下のとおりです。

```
cn, givenName, mail, mailAlternateAddress, mailAutoReplyMode,
mailAutoReplySubject, mailAutoReplyText, mailAutoReplyTextInternal,
mailAutoReplyTimeout, mailDeliveryOption, mailForwardingAddress, mailQuota,
mailMsgQuota, preferredLanguage, sn, uid, vacationEndDate, vacationStartDate
```

カスタマイズされた LDAP 属性をサーバから取得したい場合もあります。たとえば、ISP に、すべてのユーザに割り当てられている `myuserclass` というカスタム LDAP 属性があるとします。この属性は、Messenger Express などのサービスにアクセスする異なるタイプのユーザを示すことができます。この属性の値には、`regular` と `vip` があります。ユーザが Messenger Express にログインすると、ユーザのタイプ（つまり、`myuserclass` LDAP 属性の値）にしたがって、さまざまな広告タイプが表示されます。Messenger Express は、バナー広告を表示するようにカスタマイズされています。カスタマイズされたクライアントから `myuserclass` LDAP 属性にアクセスできる場合、ユーザのタイプが判別され、そのユーザタイプに応じてバナー広告が表示されます。

カスタマイズされた LDAP 属性をサーバから取得するには、`configutil` を使用して `service.http.extrauserldapattrs` 設定パラメータを変更します。この属性は、デフォルトでは読み取り専用です。顧客が Messenger Express コードを使用して属性を変更できるようにする場合は、該当の属性に `w` 接尾辞を追加して読み書き可能にする必要があります。

たとえば、顧客がユーザのクラスに従ってバナー広告を表示したい場合で、クライアントプログラムでユーザがホームページへのリンクを編集できる場合の例を、以下に示します。

```
configutil -l -o service.http.extrauserldapattrs -v myuserclass,homepage:w
```

- スペルチェックを有効にするために、自分のディクショナリを作成する必要がある (4622136)

Messenger Express のスペルチェッカー用に自分のディクショナリを作成するためには、以下のようによりハッシュファイルを構築し、それを `msgserver-root/dict` ディレクトリにコピーする必要があります。

- a. 自分のディクショナリに追加したい言語用の辞書ファイルと文法ファイル入手します。

辞書ファイルには言語別の辞書、文法ファイルには特定言語の文法上の規則が含まれています。これらのファイルの入手方法については、以下のリンクを参照してください。ここでは、利用可能な辞書ファイルと文法ファイル、およびそれらに関する指示を参照できます。

<http://fmg-www.cs.ucla.edu/fmg-members/geoff/ispell-dictionaries.html>

このバージョンの Messenger Express にはフランス語と英語 (米語) の辞書が同梱されており、それらは `msgserver-root/dict` ディレクトリにあります。

- b. `buildhash` ユーティリティを使用して、辞書ファイルと文法ファイルから、プラットフォーム別、言語別のハッシュファイルを作成します。Messenger Express のスペルチェッカーは、このハッシュファイルを使用します。

- I. `buildhash` ユーティリティを実行するには、<http://www.gnu.org/software/ispell/ispell.html> から `ispell` ソースファイルをダウンロードしてください。

- II. あるいは、`msgserver-root/dict/bin` ディレクトリにある `buildhash` ユーティリティを使用します。`buildhash` ユーティリティのシンタックスは以下のとおりです。

```
buildhash dictionary_file affix_file language_name.hash
```

`language_name.hash` ファイルの `language_name` は、Messenger Express が使用する 2 文字の言語コードです (英語は `en`、フランス語は `fr`)。自分が使用する言語の 2 文字のコードを判別するには、`msgserver-root/msg-instance/configutil | grep local.supportedlanguages` コマンドを使用します。

注 現在のところ、Messenger Express のスペルチェッカーは 2 バイト文字セットをサポートしていません。

- c. `msgserver-root/dict` ディレクトリに新たに作成された `language_name.hash` ファイルをコピーしてから、`mshttpd` サービスを再起動します。

`mshttpd` サービスを再起動すると、Messenger Express のスペルチェッカーが使用可能になります。

以下の UNIX プラットフォームの例では、`buildhash` ユーティリティを使用してイタリア語のハッシュファイル (`it.hash`) が作成されます。そのあと、`it.hash` ファイルは `msgserver-root/dict` ディレクトリにコピーされます。最後に、`mshttpd` サービスを再起動すれば、Messenger Express のスペルチェッカーが使用可能になります。

```
# cd /usr/iplanet/server5/dict/bin
# ./buildhash italian.dico italian.aff it.hash
# cp it.hash ..
# /usr/iplanet/server5/msg-budgie/start-msg http
```

問題のレポート方法

iPlanet Messaging Server で問題が発生した場合は、以下の方法で iPlanet カスタマサポートにお問い合わせください。

- iPlanet オンラインサポートの Web サイト : <http://www.iplanet.com/support/online/>
ログの問題については、このサイトから `CaseTracker` および `CaseView` ツールにアクセスしてください。
- メンテナンス契約で定められた連絡先電話番号

できるだけ確実に問題に対処できるようにするため、お問い合わせの際は以下の情報を用意してください。

- 問題の記述 (問題が発生した状況や業務への影響など)
- マシンのタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン (問題の発生に影響をあたえている可能性のあるパッチやその他のソフトウェアなど)
- 問題に至るまでの詳細な過程
- エラーログまたはコアダンプ
- `imsimta version` コマンドの出力

その他の情報

以下の Internet のサイトで、iPlanet の有用な情報を入手することができます。

- iPlanet リリースノートおよびその他のマニュアル - <http://docs.iplanet.com/docs/manuals/>
- iPlanet 製品ステータス - http://www.iplanet.com/support/technical_resources/
- iPlanet プロフェッショナルサービス情報 - http://www.iplanet.com/services/professional_services_3_3.html
- iPlanet 開発者情報 - <http://developer.iplanet.com/>
- iPlanet ラーニングソリューション - <http://www.iplanet.com/learning/index.html>
- iPlanet 製品データシート - <http://www.iplanet.com/products/index.html>

iPlanet Messaging Server の使用は、付属のライセンス契約の諸条件に基づいて許可されます。Copyright © 2002 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、iPlanet、およびその他の Sun、Java、および iPlanet を基礎とする商標およびロゴは、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。